

ナルキハ之ヲ違式罪トシ五十「グルデン」以上二百「グルデン」以下ノ罰金ニ處ス可シ又其病害篤キニ至ラシムルカ加之死亡ヲ致スキハ第三百三十五條ノ規則ニ從テ之ヲ判ス可シ

第三百六十一條 公然官許アルニ非スシテ礮石其他或ハ毒物ノ某種類若クハ法令ニ於テ毒品ト同シク禁止セシ物ヲ販賣スル者ハ之ヲ違式罪トス凡這的違式罪ニシテ殊ニ下條ニ其處刑條例ヲ掲ケサルモノハ總テ五「グルデン」ヨリ多ク五十「グルデン」ヨリ少キ罰金或ハ一日ヨリ多ク八日ヨリ少キ禁獄ニ處ス

可シ

第三百六十二條 商人若クハ細品鬻賣人ニシテ公然肆店ヲ構ル者妄リニ毒品ヲ販賣スルキハ假令毒品販賣中注意ノ規則ヲ失セスト雖モ之ヲ違式罪トシ其初回ニ於テハ毒品沒收ノ外財産ノ高ニ應シ二十五「グルデン」以上百「グルデン」以下ノ罰金ニ處ス可シ其第二回ニ於テハ罰金倍額ノ外尙ホ一月以下ノ禁獄ニ處ス可シ又第三回ニ及ヘハ本營業禁止ノ刑ニ處ス可シ

第三百六十三條 毒品販賣ノ特權ヲ有セサル商人若

クハ細物鬻賣者ニシテ殊ニ販賣中注意ス可キ規則
 ナ顧ミス妄リニ之ヲ鬻ク者ハ其初犯ニ於テ本營業
 禁止ノ刑ニ處ス可シ爾他其糾彈ニ方リ該陰賣右ノ
 如ク粗忽ニシテ已ニ久シク之ヲ犯セシヲ發覺セシ
 キハ一月以上三月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ又之ニ
 依テ某甲ヲ死ニ致セシカ或ハ重キ害傷ヲ生セシメ
 シキハ第三百三十五條ニ從テ之ヲ判ス可シ

第三百六十四條 行販者或ハ所謂巡賣者妄リニ白礬
 石黃礬石其他鼠蠅禽獸魚髓等ノ毒殺藥ヲ販賣スル
 爲メ提携シテ家々ニ之ヲ命スルキハ違式罪トシ其

毒品沒收巡賣免許褫奪ノ外已ニ販賣セシ時ノ長短
 及ヒ之ニ因テ蓋シ害傷ヲ致セシ危疑ノ多少ニ從テ
 一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ

第三百六十五條 藥舗若クハ他ノ商人ニシテ公然毒
 品商賣ノ權アル者凡毒品商賣上特ニ注意ス可キ規
 則ヲ放擲シ并ニ第三百六十六條乃至第三百六十八
 條ニ掲クル不注意トモ違式罪トシ刑ス可シ

第三百六十六條 殊ニ亦成規ノ方ヲ以テ許可ヲ得サ
 リシ者ニ毒品ヲ賣却スルキハ其初犯ニ於テ五「グ
 デン」以上五十「グ
 デン」以下又再回ニ及ヘハ本營業

禁止ニ處ス可シ

第三百六十七條 凡毒_品ヲ販賣セシキ自家帳簿中ニ該品賣與ノ人名時間及ヒ同人所持ノ該品賣得免狀ヲ謄記シ置カサル者ハ其不注意ノ罰金十「グルデン」以上五十「グルデン」以下ヲ科ス可シ再犯ニ及ヘハ百「グルデン」以下トス爾後尙ホ斯ノ如キ所業アルニ於テハ本營業禁止ノ刑ニ處ス可シ

第三百六十八條 毒_品ヲ蓄藏スルニ爾餘ノ物品ト適宜ノ距離及ヒ該品ヲ入レ置ク器物ノ記號該器ノ閉塞等ニ於テ不注意アルキハ自ラ該所業ヲ爲ス者若

クハ該舖ヲ監督スル者其責ニ任ス可シ然ルキ密ニ須要ノ注意ヲ情ルノミナレハ初犯ニ於テ五「グルデン」以上二十五「グルデン」以下ノ罰金爾後ハ其倍額トス

第三百六十九條 若シ又前條ノ如キ不注意ヨリシテ毒_品他劑ト變換シ依テ某甲死ニ至ルカ或ハ身體ニ重キ害傷ヲ蒙ルキハ該不注意ノ罪第三百三十五條ニ依テ判セラル可シ

第三百七十條 毒_品毒劑ヲ取扱フ家業ニ從事スルノ長及ヒ其代理タル者ハ必ス鄭重ニ之ヲ蓄藏シ其賣

却ニ臨テハ特ニ該件ニ關スル條例ヲ注意シテ取扱
 フ可シ若シ此規則ヲ怠レハ假令害傷ヲ生セスト雖
 モ尙ホ違式罪トシ三日以上一月以下ノ禁獄又之ニ
 依テ死亡若クハ重キ害傷ヲ生セシメシキハ其罪第
 三百三十五條ニ從テ刑セララル可シ

第三百七十一條 某劑品ノ種類ハ未タ曾テ醫家所用
 品ニ屬セス又官ノ試檢ヲ經ス全ク其性質知ル可ラ
 サル物ニシテ之ヲ賣買スル者ハ總テ第三百六十八
 條ノ刑ニ處ス可シ

第三百七十二條 凡特別ノ規則アリ豫メ禁止セラレ
 タルカ或ハ其性質ニ於テ不審ナル兇器ヲ調製シ又
 ハ其修繕改良ノ依托ヲ受ケシ者該品ヲ押へ置カサ
 レハ之ヲ届ケ出ルト雖モ尙ホ違式罪トシ三日以上
 一月以下ノ禁獄ニ處ス可シ若シ又果シテ該器ヲ以
 テ某甲ニ重傷ヲ負ハシメシカ或ハ殺害ヲ爲セシキ
 ハ第三百三十五條ノ規則ニ從テ刑セララル可シ

第三百九十八條 井池河溝等凡其水本地方ノ飲料若
 クハ釀酒ニ供ス可キ物ノ中へ死獸其他汚穢不潔殊
 ニ健康ニ害アル物品ヲ投入スル者ハ違式罪トシ三
 日以上一月以下ノ禁獄但シ其所業無法ノ放恣暴惡

ニ出ルキハ之ヲ苛嚴刑ニ處ス可シ

第三百九十九條 生肉若クハ調理或ハ炮煎セル肉類

鬻賣營業ヲ爲ス者成規ノ検査ヲ經サル獸肉ヲ鬻ク

キハ之ヲ違式罪トシ初犯ニ於テハ該肉及ヒ其肉已

ニ賣却セル代價沒收ノ外尙ホ二十五「グルデン」以上

二百「グルデン」以下ノ罰金再犯ニ於テハ其罰金倍額

又三犯ニ及ヘハ本業禁止自今永ク此類ノ營業ニ從

事スル能ハザルヲ言渡ス可シ

第四百三條 酒商麥酒釀造者及ヒ燒酎其他ノ飲料ヲ

製造スル者併ニ諸種飲食舖店ニシテ健全ヲ害ス可

キ方術ヲ以テ調和偽造セシキハ之ヲ違式罪トス

内國ニ於テ釀製セシ飲料ヲ調和ノ術ヲ以テ外國製

ニ贋偽スル者亦同罪ニ屬ス

第四百四條 前條ニ記載セル違式罪ヲ犯ス者ハ其偽

造ニ係ル不正ノ飲料ヲ沒收スルノ外尙ホ釀成ノ多

少及ヒ其釀成ヲ爲シ來リシ時ノ長短ニ從ヒ百「グル

デン」以上五百「グルデン」以下ノ罰金再犯ニ於テハ其

倍額又三犯ニ及ヘハ罰金ノ外本業禁止ノ刑ニ處ス

可シ

第四百五條 飲料ヲ試験スルニ其混合物或ハ調合品

極メテ健全ニ妨害ナルヲ發見スルキハ直チニ該飲料ヲ棄除シ尙ホ本違式罪ニ對シ終身飲料商方製造小賣ノ業禁止ノ外三月以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ

第四百六條 錫器鑄工或ハ凡家業トシ錫製ノ煮器食器ヲ作ル者鉛ヲ以テ之ヲ偽造シ或ハ鉛ヲ混和シ錫ト爲スルハ其偽製ノ錫器ヲ沒收スルノ外尙ホ初犯ニ於テハ二十五「グ」ルデン以上五十「グ」ルデン以下ノ罰金又再犯若クハ初犯ト雖モ其健全ニ妨害ナル器具偽製ヲ爲ス「ト」已ニ久シキカ或ハ之ヲ販賣スル「ト」

許多ナルカ爾他又該器ニ依テ果シテ健全ヲ害セシ者アリシキハ本營業禁止ノ刑ニ處ス可シ

第四百七條 前ニ記載セル諸種毒物ノ外爾他ノ食物ニ於テ各個調合品混同物或ハ偽物等凡原質實體ニ於テ毒害ノ性質ヲ含ミ或ハ副加セル物品中或ハ調合法又ハ調合器若クハ盛器中ニ健全ヲ害ス可キ性質ヲ帶テ本食物ニ播傳セシ物品ヲ販賣スルキハ之ヲ違式罪トシ刑ス可シ又ハ害ノ大小及ヒ販賣セシ時ノ長短ニ應シ十「グ」ルデン以上百「グ」ルデン以下ノ罰金或ハ三日以上一月以下ノ禁獄又情狀ノ甚シキ

ニ應シ之ニ苛嚴ヲ加フルコアル可シ殊ニ尙ホ危疑
ス可キ情アレハ本刑法第四百四條及ヒ第四百五條
ニ從テ刑スルコアル可シ

第四百八條 前條違式罪中左ノ事件ヲ尤モ重大ナリ

トス

(イ) 食物へ鑛物ノ染料ヲ用ヒ或ハ直チニ人體へ接
ス可キ衣類へ銅、礬石、鉛、亞鉛其他毒害ノ金屬ヲ含
有セル鑛物染料ヲ上塗シ或ハ凡同上ノ鑛色ヲ混
合セル糊ヲ以織物ヲ剛強ナラシムル時

(ロ) 食器飲器煮器幼童者翫弄器へ鉛粉其他不良ノ

藥品使用

總テ綠金色ノ摸樣アル食器幼童者
翫弄器ハ已ニ全ク禁制ニ屬ス

(ハ) 成規ニ悖リ新銀(銅、ニッケル、亞鉛、鐵ヲ混合シタ
ル物ニシテ之ヲ清國新銀ト云

フ)ヲ以テ食器飲器煮器等ノ製造

(ニ) 燒酒製造者或ハ其販賣者燒酒製造器械ノ設立
ニ關シ故ラニ布令セラレタル規則ノ不注意

(ホ) 肉類炮煮其他凡炮煮ノ食物販賣ヲ以テ家業ト
爲ス者盛ルニ銅器ヲ用フル事

第四百十一條 故ラニ爭論ニ依テ他人ノ身體ニ毀傷
ヲ生シ未タ第五百五十二條及ヒ第五百五十三條ノ如キ
嚴刑ニ觸ル可キ所業ヲ犯サスト雖モ然レモ其痕跡

顯然且後害ヲ貽スルハ之ヲ違式罪トシ刑ス可シ
第四百十二條 前條違式罪ノ刑ハ其所業ノ危険及ヒ
暴悍犯爲ノ度數(殊ニ爭論常習者ニシテ)毀傷ノ輕重
被傷者ノ性質等ニ從テ三日以上六月以下ノ禁獄ニ
處ス可シ

○印度

第三百十九條 人身ヲ痛苦疾病衰弱ニ致ス之ヲ人ヲ
損傷スト云フ
第三百二十條 左ニ掲クル損傷ヲ名テ重損傷ト云フ

- 一 男勢ヲ去ル
- 二 永久一目ヲ瞎ス
- 三 永久一耳ヲ毀ル 聽ヲ失ハシムルヲ云フ
- 四 一肢ヲ破ル
- 五 永久肢力ヲ壞ル
- 六 永久頭形面容ヲ壞ル
- 七 骨或ハ齒ヲ折跌又ハ破碎ス
- 八 命ヲ危フシ或ハ二十日間身體ヲ甚タ痛苦セシ
メ又ハ常職ヲ執ル能ハサラシムルノ損傷ヲ蒙ラ
ス

第三百二十一條 損傷ヲ蒙ラスルノ意ヲ以テ或ハ其以テ損傷ヲ蒙ラスルニ至ルノ恐アルヲ知テ一所爲ヲ行ヒ因テ人ニ損傷ヲ蒙ラスル之ヲ故ラニ損傷ヲ蒙ラスト云フ

第三百二十二條 其蒙ラセント圖リ或ハ蒙ラスルニ至ルヲ恐ル、所ノ損傷重傷ニシテ其實ニ蒙ラスル所重損傷ナルキハ之ヲ蒙ラセタル人ヲ稱シテ故ラニ重損傷ヲ蒙ラスル者ト云フ

説明 重損傷ヲ蒙ラスルヲ圖リ或ハ重損傷ヲ蒙ラスルノ恐アルヲ知テ重損傷ヲ蒙ラスルニ非サレ

ハ之ヲ稱シテ故ラニ重損傷ヲ蒙ラスト云ハス然レモ一種ノ重損傷ヲ蒙ラスルノ意ヲ以テ或ハ之ヲ蒙ラスルニ至ルノ恐ヲ知テ別種ノ重損傷ヲ蒙ラスル者ハ之ヲ稱シテ故ラニ重損傷ヲ蒙ラスル者ト云フ可シ

第三百二十三條 第三百三十四條ニ記載スル場合ノ外故ラニ人ヲ損傷スル者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百二十四條 第三百三十四條ニ記載スル場合ノ

外割刺射器又ハ其他死ヲナスニ足ル所ノ器或ハ火
又ハ熱物或ハ毒物或ハ呼吸血運ヲ害スル物或ハ爆
散物又ハ獸類ヲ以テ故ヲニ人ヲ損傷スル者ハ三年
ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金
ヲ併用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百二十五條 第三百三十五條ニ記載スル場合ノ
外故ヲニ人ヲ重損傷スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入
獄及ヒ贖金ニ處ス可シ

第三百二十六條 第三百三十五條ニ記載スル場合ノ
外割刺射器又ハ其他死ヲナスニ足ル所ノ器或ハ火

又ハ熱物或ハ毒物或ハ呼吸血運ヲ害スル物或ハ爆
散物又ハ獸類ヲ以テ故ヲニ人ヲ重損傷スル者八十
年ニ止ル各種ノ入獄ニ處ス且贖金ヲ科ス可シ

第三百二十七條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ノ
財物或ハ有價ノ保證ヲ奪ヒ若クハ被害者或ハ被害
者ニ關係アル者ニ迫テ不法ノ事又ハ犯罪ヲ容易ナ
ラシムルノ事ヲナサシムルカ爲メニ故ヲニ損傷ヲ
蒙ラスル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金
ヲ科ス可シ

第三百二十八條 人ヲ損傷スルノ意ヲ以テ或ハ罪ヲ

犯シ又ハ罪ヲ犯スヲ容易ナラシムルノ意ヲ以テ或
ハ人ヲ損傷スルノ恐アルヲ知テ人ヲ毒害シ又ハ昏
迷酩酊セシムルノ物ヲ啗ハシムル者ハ十年ニ止ル
各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ一千八百七十
年決議第二十七第二條ヲ見ヨ

第三百二十九條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ノ
財物又ハ有價ノ保證ヲ奪ヒ若クハ被害者或ハ被害
者ニ關係アル者ニ迫テ不法ノ事又ハ犯罪ヲ容易ナ
ラシムルノ事ヲナサシムルカ爲メニ故ラニ重損傷
ヲ蒙ラスル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入

獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ一千八百七十年決議第
二十七第二條ヲ見ヨ

第三百三十條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ヲシ
テ罪過ヲ白シ又ハ之ヲ告ケシムルカ或ハ被害者或
ハ之ニ關係アル者ヲシテ財物又ハ有價保證ヲ返償
セシムルカ爲メ故ラニ損傷ヲ蒙ラスル者ハ七年ニ
止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ一千八百
七十年決議第二十七第二條ヲ見ヨ

第三百三十一條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ヲ
シテ罪過ヲ白シ又ハ之ヲ告ケシムルカ或ハ被害者

或ハ被害者ニ關係アル者ヲシテ財物又ハ有價ノ保
 證ヲ返還セシムルカ爲メニ故ラニ重損傷ヲ被ラス
 ル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス
 可シ一千八百七十年決議第二十七條第二條ヲ見ヨ
 第三百三十二條 其職ヲ行フヲ止ルノ意ヲ以テ或ハ
 其職ヲ行フタルノ故ニ又ハ其職ヲ行フニ際シ故ラ
 ニ官吏ヲ損傷スル者ハ三年ニ止ル入獄ニ處シ且贖
 金ヲ科ス可シ
 第三百三十三條 其職ヲ行フヲ止ルノ意ヲ以テ或ハ
 其職ヲ行フタルノ故ニ又ハ其職ヲ行フニ際シ故ラ

ニ官吏ヲ重損傷スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ
 處シ且贖金ヲ科ス可シ

第三百三十四條 忿怒ニ乘シ己ヲ怒ラスモノニ非サ
 ル人ヲ損傷スルノ意ナク又ハ之ヲ損傷スルノ恐ア
 ルヲ知ラス故ラニ損傷ヲ蒙ラスル者ハ一個月ニ止
 ル各種ノ入獄若クハ五百「リユ―ピー」ニ過キサ
 ル贖金ニ處シ又ハ兩ナカラ入獄贖金ニ處ス可シ

第三百三十五條 己ヲ怒ラスモノニ非サル人ヲ重損
 傷スルノ意ナク又ハ之ヲ重損傷スルノ恐アルヲ知
 ラス重損傷ヲ蒙ラスル者ハ四年ニ止ル各種ノ入獄

若クハ二千「リユーピー」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

説明 第三百條ノ如ク卒然重大ノ凌辱ノ故ニ人ヲ損傷スル者ハ以上二條ノ例ニ在ラス

第二百六十八條 煩苦共同罪所爲又ハ不法ノ懈怠ヲ以テ共同又ハ近所ノ諸人一般ニ損害危険苦難ヲ及ホシ或ハ公權ヲ用フルコトアル人ニ損害苦難危険ヲ蒙ラスル者ハ煩苦共同罪ヲ犯スナリ
煩苦共同罪ハ便益ノ爲メニナシタルモ罪ヲ免レス

第二百七十二條 販賣ノ飲食ニ假物ヲ摺雜ス

其飲食トシテ販賣セラル、ヲ知り或ハ飲食トシテ之ヲ販賣スルヲ圖リ飲食ニ假物ヲ摺雜シ有害物トナス者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユーピー」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百七十三條 有害ノ飲食ヲ販賣ス

其飲食スルニ有害ナルヲ知テ又ハ信スルノ理由ヲ有シ有害物トナリタル物ヲ飲食トシテ賣リ又ハ賣ントスル者ハ六個月ニ及フ各種ノ入獄若クハ一千「リユーピー」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ

兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百七十四條 醫藥ニ假物ヲ摺雜ス

醫藥トシテ賣リ又ハ用フルヲ圖リ或ハ其醫藥トシテ賣ラレ又ハ用ヒラル、ヲ知り醫藥ニ假物ヲ摺雜シ以テ其力ヲ減シ其用ヲ變シ又ハ之ヲ害物トナス者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千リユービ
「ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百七十五條 假物ヲ摺雜シタル醫藥ヲ販賣ス

假物ヲ摺雜シテ醫藥其力ヲ減シ其用ヲ變シ又ハ害

物トナリタルヲ知り眞トシテ之ヲ賣リ又ハ賣ントスル者ハ前條ノ刑ニ處ス可シ

第二百七十六條 一種ノ醫藥ヲ別種ノ醫藥トシ販賣

ス

知リナカラ一種ノ醫藥ヲ別種ノ醫藥トシテ賣リ又ハ賣ントスル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千リユービ「ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百七十七條 公用ノ水源水井ヲ汚濁ス

故ヲニ公用ノ水源水井ヲ汚濁シ其用ヲ失ハシムル

者ハ三個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ五百リユール
一ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ
之ヲ罰ス可シ

第二百七十八條 空氣ヲ汚シテ健康ヲ害ス
空氣ヲ汚シテ近所ニ住居シ或ハ營業スル人又ハ道
路往還ノ人ノ健康ニ害アラシムル者ハ五百リユール
一ニ過キサル贖金ヲ科ス

第二百七十九條 公街ニ車馬ヲ馳驅ス
人ヲ殺傷スルニ至ル可キ疎暴輕忽ヲ以テ公街ニ車
馬ヲ馳驅スル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ

一千リユール一ニ過キサル贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰
ス可シ

第二百八十三條 通街航路ニ於テ危險障礙ノ所爲ヲ
行フ

一所爲ヲ行ヒ又ハ己ノ所有又ハ所管ノ物ヲ修ムル
一ヲ懈怠シ因テ通街航路ノ人ニ危險障礙損害ヲ蒙
ラスル者ハ二百リユール一ニ過キサル贖金ヲ科ス

第二百八十四條 毒物ニ係ル怠慢粗暴ノ所爲
粗暴輕忽毒物ニ係テ殺傷ヲ生スルニ至ル如キノ所
爲ヲ行ヒ又ハ知リナカラ或ハ怠テ能ク我所持ノ毒

物ノ人命ヲ危フシ又ハ他人ヲ傷害スルノ患ヲ防カサル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユ」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百八十五條 火或ハ易燃物ニ係ル輕忽ノ所爲

火或ハ易燃物ニ係テ粗暴輕忽人命ヲ危フシ又ハ他人ヲ傷害ス可キ所爲ヲ行ヒ又ハ怠テ或ハ知リテカラ能ク修メ以テ其人命ヲ危フスルノ患ヲ防カサル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百八十六條 爆散ノ物ニ係ル輕忽ノ所爲

爆散物ニ係リ粗暴輕忽人命ヲ危フシ又ハ他人ヲ傷害ス可キ所爲ヲ行ヒ又ハ知リテカラ或ハ怠テ能ク我所持ノ爆散物ヲ整へ其人命ヲ危フスルノ患ヲ防カサル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユ」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百八十七條 己ノ所有又ハ委任セラレタル器械

ニ係ル輕忽ノ所爲

己ノ所有又ハ委任セラレタル器械ニ係テ粗暴輕忽

人命ヲ危フシ又ハ他人ヲ傷害ス可キ所爲ヲ行ヒ或
ハ知リナカラ又ハ怠テ己ノ所有又ハ委任セラレタ
ル器械ヲ能ク整ヘ以テ其命ヲ危フスルノ患ヲ防カ
サル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユ
ーピー」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用
シテ之ヲ罰ス可シ

第二百八十八條 建物ヲ崩シ又ハ修ムル事ニ係ル輕
忽

建物ヲ崩シ又ハ修ムルニ怠テ又ハ知リナカラ其建
物又ハ其建物ノ一部分落テ人命ヲ危フスルノ患ヲ

防カサル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金
ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百八十九條 畜類ニ係ル輕忽ノ所爲

知リナカラ或ハ怠テ我カ所有ノ畜類ノ人命ヲ危フ
シ又ハ大ナル傷害ヲ生スルノ患ヲ防カサル者ハ六
個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユーピー」ニ過
キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰
ス可シ

第二百九十條 惱苦公同罪ノ處罰

凡該刑法ニ於テ掲ケサル惱苦公同罪ハ二百「リユー

第二百九十一條 惱苦公同ノ事ヲ止ムルノ命ヲ受ケ
而シテ之ヲ止メス

官吏其職ヲ以テ惱苦公同ノ事ヲ重爲スルヲ禁シ又
ハ之ヲ止ムルノ命ヲ發ス而ルニ之ニ背キ其事ヲ重
爲シ又ハ止メサル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若
クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス
可シ

○加利堡爾尼

第二百三條 凡害意アツテ不適法ニ人ノ支體ヲ折斷
シ若クハ奪力壞容廢用シ若クハ人ノ舌ヲ截斷奪力
シ人ノ目ヲ抉潰シ人ノ耳鼻口唇ヲ割裂スル者ハ並
ニ折傷罪トナス

第二百四條 折傷罪ハ十四年以下ノ禁固ヲ科ス

第二百四十二條 毆打トハ故ヲニ不適法ノ暴力暴打
ヲ人ノ身軀ニ加フルヲ言フナリ

第二百四十三條 毆打ハ一千元以下ノ罰金若クハ一
年以下ノ禁固ヲ科ス

第二百四十四條 凡人ノ血肉ヲ傷害シ若クハ人ノ身

體ヲ壞毀セント欲スルノ害意アツテ故ヲニ消酸腐蝕酸若クハ其他一切ノ腐爛藥劑ヲ人ノ身軀ニ施置投擲シ若クハ施置投擲スルヲ致ス者ハ一年以上十四年以下ノ禁固ヲ科ス

第三百四十六條 凡醫師若シ醉中ニ治療ヲ施シ因テ病者ノ生命ヲ累危スル者ハ小罪ト爲ス

第三百四十七條 凡人ヲ傷害センヲ企欲シテ故ラニ毒物ヲ食品飲料若クハ藥劑ノ中ニ混和スル者及ヒ泉水井水瀦水ニ毒物ヲ投スル者ハ一年以上十年以下ノ禁固ヲ科ス

第三百七十條 凡不適法ノ事ヲ行ヒ若クハ當行ノ常道ヲ欠テ本州ノ整頓節制ヲ犯ス者ヲ播害罪トス其條件左ノ如シ

第一 衆ノ愉快靜息健康安全ヲ煩惱妨害累危スル者

第二 略ス

第三 略ス

第四百 其行フ所衆ノ生命用産ヲ不安ナラシムルニ至ル者

第三百七十一條 凡上條ノ各件ニ觸レテ害ヲ衆ニ及

ホス者ハ其害鮮少ナリモ均ク播害罪ト爲ス

第三百七十二條 凡其刑ヲ掲記セサル播害事ヲ執持

舉行スル者及ヒ其播害事ノ除却ニ關スル職掌ヲ故

ヲニ欠ク者ハ並ニ小罪ト爲ス

第三百七十五條 凡火藥硝油及ヒ其他猛發ノ氣力ア

ル物料ヲ府邑内ニ製造保有スル者及ヒ法律若クハ

府邑ノ規式ニ違ヘル分量法方ヲ以テ這樣ノ劑料ヲ

街衢ニ運輸スル者ハ並ニ小罪ト爲ス

第三百七十七條 凡政法中其刑ヲ記セサル保健諸條

例ヲ故ヲニ犯ス者ハ其章ニ記載セル贖金ヲ收メ仍

ホ一年以下ノ禁固若クハ二千元以下ノ罰金ヲ科シ

若クハ右二刑ヲ併科ス

第三百七十八條 右保健諸條例ニ就テ職務アル者若

シ故ヲニ其職掌ヲ奉行スルヲ怠惰不肯スル者ハ

小罪ト爲ス

第三百八十條 製藥舖、生藥舖及ヒ其他生藥製藥ヲ醫

ク者若クハ其書記者發賣人若シ其生藥製藥ヲ發賣

シ若クハ醫家ニ命令セラレタル藥劑若クハ他ヨリ

吩咐セラレタル製藥生藥ヲ調進スルニ之ニ號帶ヲ

付スルヲ欠キ或ハ失實ノ號帶印章若クハ別物ノ

表號ヲ其箱盒瓶罇蓋包ニ付シ或ハ命令吩咐セラレタル所ニ違ヒ別藥ヲ代用シ若クハ命令吩咐セラレタル所ニ違ヒ其分量ヲ増減シ或ハ其命令吩咐セラレタル所ヲ失誤シテ以テ人ノ生命健康ヲ累危スル者ハ其故意怠惰若クハ無學識ニ因ルヲ論セス並ニ小罪ト爲ス

第三百八十二條 凡真正純粹ノ物ト欺騙シテ之ヲ發賣シ若クハ發賣スルコトヲ致サント企欲シテ食品飲料生藥製藥精酒釀酒葡萄酒若クハ之ヲ調合スルニ必需ナル一切ノ物材ヲ摻雜稀薄スル者及ヒ真正純

粹ノ物ト欺騙シテ這樣ノ摻雜稀薄物ヲ販賣保有權賣スル者ハ並ニ小罪ト爲ス

第三百八十三條 凡食品飲料生藥製藥ノ沾汗衰敗腐爛シテ健康ニ利アラズ飲食ニ可ナラサルコトヲ知リナカラ仍ホ之ヲ販賣保有權賣發配スル者ハ小罪ト爲ス

第六百一條 凡害意アツテ火藥若クハ其他ノ爆發劑ヲ發シテ各種ノ家屋其全部トヲ論セト一分ヲ破壞摧倒妨害シ因テ以テ人ノ生命安全ヲ累危スルニ至ル者ハ大罪ト爲ス

○魯西亞

第千四百七十七條 豫謀ノ故意ヲ以テ或者ヲ重キ不具ニ致シ或ハ健康或ハ体力ニ重害ヲ蒙ラシメテ即チ目視舌言耳聽或ハ手足又ハ生子部ヲ損害スル者又ハ或ル方略ヲ以テ或者ノ面上ニ消去ス可ラサル醜狀ヲ生セシムル者ハ之カ爲メニ豫謀ノ多少ニ依リ犯罪ヲ遂ル時ノ殘酷ノ等級ニ依リ及ヒ其犯罪ヲ遂ンカ爲メニ使用シタル方略ニ依リ並ニ若シ不信實ノ所爲ヲ以テ不具ニナラシメタル撃打ヲ爲シタ

ルキハ不具ニナリタル者ノ生命ノ危難及ヒ苦痛ノ輕重並ニ其者ノ存命ノ爲メ及ヒ將來養育ノ爲メニ斯ノ如キ不具ヨリ生スル結果ノ輕重ニ依リ族權全部ノ剝奪及ヒ四年ヨリ少カラス六年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役又ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セラレ
若シ又重キ不具ニナシ或ハ健康ヲ害シ又ハ面上ニ消去ス可ラサル醜狀ヲ生セシムルニ苛責或ハ其他ノ苦楚ヲ以テシタルキハ族權全部ノ剝奪及ヒ六年ヨリ少カラス八年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲

役ニ處セラル

第千四百七十八條 豫謀ノ故意ヲ以テ或者ヲ輕ク不具ニ致シタル者ハ亦豫謀ノ多少及ヒ其不具ヨリ生シタル苦痛ノ輕重ニ依リ並ニ其不具ニナリタル者已レノ常業及ヒ常役ニ不適當ナル時間ノ長短及ヒ事ノ情實ニ依リ身体及ヒ族位ニ属シタル族權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第二等或ハ第四等又ハ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル

第千四百七十九條 若シ前文第千四百七十八條ニ掲

載シタルカ如ク輕ク不具ニスルニ苛責或ハ其他ノ苦楚ヲ以テシタル者ハ其不具ノ輕重ニ依リ並ニ犯成ノ時ニ顯ハシタル憤怒及ヒ殘酷ノ等級ニ依リ第千四百七十八條ニ定メタル罰ニ對照シテ一等ヲ重加セラル

第千四百八十條 豫謀ノ故意ナク性急或ハ憤怒ニ由ルト雖モ偶然ニアラス且己レカ所行ノ結果ヲ了知シテ以テ或者ヲ重ク不具ニ致シ或ハ輕ク不具ニ致シ又ハ其者ノ面上ニ消去ス可ラサル醜狀ヲ生セシムル者ハ其折傷或ハ醜狀ノ輕重並ニ斯ノ如キ憤怒

ノ原因及ヒ事ノ情實ニ依リ身体及ヒ族位ニ属シタル特權全部ノ剝奪或ハ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラルル或ハ此刑法第五十條ニ依リ特權幾分ノ剝奪ヲ以テ八箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間懲治舍内ノ禁錮ニ處セラルル又ハ四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラルル

第千四百八十一條 豫謀ノ故意ヲ以テ或者ニ重キ疵傷ヲ負ハシムル者ハ其疵傷ノ種類及ヒ其疵傷ヲ負

ハシムル爲メニ使用シタル器械ノ種類並ニ疵傷ヲ蒙ラシメタル身体ノ部分ノ輕重及ヒ疵傷ノ爲メニ其被傷人ノ疾苦シタル時間並ニ常業及ヒ常役ニ不適當ナル時間ノ長短ニ依リ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流又ハ身体及ヒ族位ニ属シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第三等或ハ第五等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラルル

第千四百八十二條 豫謀ノ故意ヲ以テ或者ニ輕キ疵傷或ハ僅ニ疵傷ヲ負ハシムル者ハ其疵傷ノ種類及ヒ疵傷ヲ負ハシメタル器械ノ種類並ニ疵傷ヲ蒙ラ

シメタル身体ノ部分ノ輕重及ヒ凡テ事ノ情實ニ依
リ身体及ヒ族位ニ属シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此
刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流
或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル或ハ八箇月ヨリ少
カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ノミ
ニ處セララル

第千四百八十三條 豫謀ノ故意ナク性急或ハ憤怒ニ
由ルト雖モ偶然ニアラス且己カ所行ノ結果ヲ了知
シテ以テ疵傷或ハ其他ノ損傷ヲ負ハシムルノ罪人
ハ若シ其疵傷或ハ損傷ノ重キハニハ身体及ヒ族位

ニ属シタル特權全部ノ剝奪及此刑法第三十一條ノ
第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編
入ニ處セララル
而シテ若シ其疵傷或ハ損傷ノ輕キハ二箇月ヨリ
少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セ
ラル

第千四百八十四條 若シ豫謀ノ故意ヲ以テ不具ニナ
シ或ハ疵傷ヲ負ハセ又ハ其他健康ヲ害セシヨリシ
テ死セシムルハ族權全部ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少
カラス十年ヨリ多カラサル時間ノ城塞懲役ニ處セ

ラル

若シ豫謀ノ故意ナクシテ性急或ハ憤怒ニ由ルト雖モ故意ヲ以テ不具ニナシ或ハ疵傷ヲ負ハセシヨリシテ死セシムルキニハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第二等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラ

第千四百八十五條

豫謀ナキノミナラス全ク不具ニナシ或ハ疵傷ヲ負ハシムルノ故意ナク喧嘩或ハ口論ニ於テ不具ニシ或ハ疵傷ヲ負ハシムルキハ不具

トナリシ者或ハ疵傷ヲ蒙リシ者ニ對スル暴行ニ與ミセシ者ハ左ノ主義ヲ以テ罰ニ處セラル可シ

第一 若シ其不具ニ致シ或ハ疵傷ヲ負ハセタル者ノ知レタルキハ其一名或ハ數名ノ罪人ハ八箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間ノ

禁獄ニ處セラル

第二 若シ又不具ニ致シ或ハ疵傷ヲ負ハセタル者ノ知レサルキハ喧嘩ノ主謀人タリシ者或ハ喧嘩ノ續行或ハ恢復ヲ言辭或ハ所行ニテ挑唆セシ者ハ不具或ハ疵傷ノ種類及ヒ事ノ情實ニ依リ二箇

月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁
獄ニ處セラル
而シテ其他喧嘩ニ與ミシタル總テノ者ハ七日ヨ
リ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ
處セラル

第千四百八十六條

豫謀ノ故意ヲ以テ或者ノ健康ヲ
害シ或ハ糧食ニ毒物或ハ其他ノ害物ヲ混交シ又ハ
斯ノ如キ物質ヲ使用シテ以テ或者ノ健康ヲ妨害ス
ル者ハ其之レヨリ生シタル疾病或ハ狂亂ノ種類及
ヒ輕重ニ依テ左ノ罰ニ處セラル即チ其疾病或ハ狂

亂ハ平瘡シ難キモノト認知セラル、ノ場合ニ於テ

ハ故意ヲ以テ重ク不具ニスルニ就キ前文第千四百

七十七條ニ確定シタル罰ノ重キモノニ處セラル

而シテ其他ノ總場合ニ於テハ疾病ノ輕重及ヒ其平

瘡ノ難易ニ從ヒ輕ク不具ニスルニ就キ前文第千四

百七十八條ニ確定スル罰ノ重キモノニ處セラル

若シ醫師製藥者或ハ產婆斯ノ如キ犯罪ヲ爲シタル

ハ其犯罪ノ爲メニ確定シタル罰ニ一等加重ス可

シ

第千四百八十七條

毒物或ハ劇物ヲ使用セスト雖モ

障害ヲ蒙ラシムルノ故意ヨリ或ル他ノ方略ヲ以テ
 或者ノ智力ヲ亂ス者ハ前文第千四百八十六條ニ確
 定シタル罰ニ處セララル可シ

第千四百八十八條 若シ前文第千四百八十六條及ヒ
 第千四百八十七條ニ掲載シタル犯罪ヨリシテ或者
 ナ死セシメタルキハ不具ニナシテ遂ニ死セシメタ
 ルニ就キ前文第千四百八十四條ニ確定シタル罰ノ
 重キモノニ處セララル

第千四百八十九條 性命ヲ危殆ニスル重キ殴打或ハ
 其他ノ苛責或ハ苦楚ヲ或者ニ故意ヲ以テ加フルノ

罪人ハ其時ニ顯シタル殘酷ノ多少及ヒ其加ヘタル
 傷害ノ等級並ニ其所行ヲ導キタル情實ニ依リ身体
 及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第
 三十一條ノ第一等第二等或ハ第三等ニ依テ西比利
 住所ノ故流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル

第千四百九十條 若シ前文第千四百七十七條第千四
 百七十八條及ヒ第千四百八十一條ニ記載スル不具
 或ハ重傷又ハ智力ノ損害ハ前文第千四百八十九條
 ニ掲載シタル殴打苛責或ハ苦楚ノ結果タルキハ縱
 令被辱人ヲ斯ノ如ク不具ニ致シ或ハ之ニ疵傷ヲ負

ハセ又ハ之レカ智力ヲ損害スルノ直意ナシト雖モ其罪人ハ族權全部ノ剝奪及ヒ四年ヨリ少カラス六年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ處セラル若シ又死去ハ斯ニ如キ事ノ結果タルキニハ族權全部ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間ノ城塞懲役ニ處セラル

第千四百九十一條 知テ故ラニ妊婦ヲ不具ニ致シ或ハ之ニ疵傷ヲ負ハセ又ハ之レカ健康ヲ大ニ害シテ遂ニ其妊婦ノ子ヲ過速ニ出産及ヒ死去セシムルニ至ルキニハ縱令斯ノ如キ不幸ヲ醸スノ直意ナキ證

アリト雖モ其罪人ハ故意ヲ以テ不具ニ致シ疵傷ヲ負ハセ健康ヲ害シ又ハ苛責或ハ苦楚及ヒ殴打ヲ加フルニ就キ此前文第千四百七十七條ヨリ第千四百八十四條ニ至ルノ各條及ヒ第千四百八十六條ヨリ第千四百九十條ニ至ルノ各條ニ確定シタル罰ノ至嚴至重ナルモノニ處セララル

第千四百九十二條 若シ父或ハ母ヲ不具ニ致シ或ハ之ニ疵傷ヲ負ハセ又ハ其健康或ハ智力ヲ害シ又ハ之ニ殴打ヲ加ヘタルキニハ前文第千四百七十七條ヨリ第千四百九十一條ニ至ルノ各條ニ確定シタル

罰ニ三等加重セラル而シテ若シ罪人ハ其正統尊族
又ハ凡テ此前文第千四百五十一條ニ記載シタル者
ヲ不具ニシ或ハ之ニ疵傷ヲ負ハセ又ハ其健康智力
ヲ害シ又ハ之ニ毆打ヲ加ヘタルキニハ前文第千四
百七十七條ヨリ第千四百九十一條ニ至ルノ各條ニ
確定シタル罰ニ二等加重セラル可シ

第千四百九十三條 此刑法第百一條ヨリ第百三條ニ
至ルノ各條ニ記載スル所ノ已ムヲ得サル身体防禦
ノ時ニ其防禦ヲ已ムヲ得サルモノト確定ス可キ制
限ヲ超過スル者及ヒ既ニ脅迫シタル危殆ヲ避ケシ

後ニ已ムヲ得サルニアラスシテ己レヲ襲撃シタル
者ヲ不具ニ致シ或ハ之ニ疵傷ヲ負ハシムル者ハ之
カ爲メニ其發端ノ種類及ヒ事ノ情實ニ依リ二箇月
ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄或
ハ七日ヨリ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ
拘留又ハ法廷ノ譴責ニ處セラル

第千四百九十六條 不具ニナシ疵傷ヲ負ハセ毆打ヲ
加ヘ及ヒ苛責或ハ其他ノ苦楚ヲ與ヘ並ニ健康ヲ大
ニ害スルニ就テハ此章ニ確定シタル罰ノ外其罪人
ハ被害人又ハ其親子配偶親族後見人或ハ受託人ノ

要求ニ由テ被害人ノ治療ニ使用シタル入費ヲ拂ヒ
且之ニ蒙ラシメタル損害ヲ返償ス可シ

第八百六十三條 若シ或人カ空氣ノ新鮮或ハ淨水ノ
無害ニ對シテ法律上有害ナルモノト認知サレタル
製造場ヲ都會ノ内ニ設立シ或ハ縱令都會ノ外ナリ
ト雖モ河流ニ由テ其都會ノ上ナル處ニ斯ノ如キ製
造場ヲ設立スルキニ其家館ハ罪人ノ入費ヲ以テ廢
毀セララル而シテ其罪人ハ百「ル」以下ノ贖金ニ
處セララル

第八百六十四條 人ノ生命ヲ失ハシムルノ故意ヲ以

テ淨水ニ毒物或ハ劇物及ヒ害物ヲ投入スルニ就テ
ハ謀殺ニ就キ此刑法第千五百三條ニ確定シタル罰
ニ處セララル

第八百六十五條 勸解罰則第百十五條ニ掲載シタル
違罪ヲ遂ルニ就キ若シ之レヨリシテ人ヲ死セシム
ルキハ違罪ニ就テ確定シタル罰ニ處セラレ且飲料
或ハ食物ヲ販賣或ハ準備スルノ權利及ヒ其飲料ヲ
準備或ハ貯存スル器具ヲ製造スルノ權利ヲ永ク剝
奪セララル、ノ外若シ其罪人聖教者ナルキハ其僧管
廳ノ處分ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處セララル

第八百六十六條 毒物或ハ劇物ヲ販賣スルノ權利ヲ

法律上ニ有セスシテ之ヲ販賣スル者ハ之カ爲メニ
事ノ情實ニ依リ及ヒ殊ニ其販賣シタルモノハ毒物
ナル歟又ハ只劇物ナル歟ニ依リ二箇月ヨリ少カラ
ス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄或ハ只百ル
ブル以下ノ贖金ノミニ處セララル
而シテ其者ノ處ヨリ見出サレタル毒物及ヒ劇物ハ
地方公救場ノ爲メニ沒收セララル
刑罰或ハ贖金ニ處セラレシ後ニ再ヒ斯ノ如キ犯罪
ヲ爲スニ就テハ四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多

カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル

第八百六十七條 己レ毒物或ハ劇物ヲ販賣スルノ權

利ヲ有スト雖モ彼ノ之ヲ購買スルノ權利ヲ有セサ
ル者歟或ハ購買スルノ權利アル證書ヲ顯ハサハル
者ニ知テ之ヲ販賣スル者或ハ其他販賣ノ爲メニ定
メタル豫戒ノ方法ヲ遵守スルヲナク知テ販賣スル
者並ニ其販賣ヲ允許スル所ノ證書ヲ以テセスシテ
之ヲ販賣スル者ハ百ル以下ノ贖金ニ處セラ
レ且其毒物及ヒ劇物ヲ販賣スルノ權利ヲ永ク剝奪
セララル

若シ或人其後己カ蒙リタル禁止ニ反シテ再ヒ毒物
及ヒ劇物ヲ販賣スルヲ證徴セラル、キハ三百ル
ブル以下ノ贖金及ヒ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨ
リ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラル

第八百六十八條 毒物及ヒ劇物ヲ販賣シ或ハ職業ニ
使用センカ爲メ之ヲ己レニ有スルヲ允許セラル、
者ハ之ヲ貯存及ヒ使用スルニ方リ豫戒ノ方法ヲ遵
守セサルニ就キ初度ニ於テハ三十ル以下ノ
贖金再度ニ於テハ百ル以下ノ贖金三度ニ於
テハ再度ニ就テ確定シタル贖金ニ處セラル、外毒
物及ヒ劇物ヲ販賣スル爲メノミニアラス職業ニ使
用スル爲メニモ之ヲ己レニ有スルノ權利ヲ剝奪セ
ラル可シ

第八百六十九條 前文第八百六十六條ヨリ第八百六
十八條ニ至ルノ各條ニ掲載シタル違罪ヨリシテ人
ヲ死セシムルノ場合ニ於テハ其罪人此前文ニ定メ
タル贖金及ヒ刑罰ニ處セラル、ノ外若シ其者聖教
人ナルキハ其僧管廳ノ處分ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處
セラル

第八百七十條 醫藥廳ニ於テ醫師外科醫産科醫或ハ

産婆が其術ヲ知ラサル爲メニ明白ナル過失ヲ爲ス
ト認知スルルキニ其醫師或ハ産婆ハ再度ノ試験ヲ受
ケス及ヒ己カ業事ヲ了知スル證書ヲ得サルノ間治
療ヲ禁止セララル

若シ不規則ノ治療ヨリシテ人ヲ死セシメ或ハ其健
康ヲ大ニ害セシムルルキハ其者若シ聖教人ナラハ己
カ僧管廳ノ處分ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處セララル

第八百七十一條 醫療ノ允許ヲ與フル爲メニ法律ノ
要求スル諸報告者ニ醫療ノ允許ヲ與フル者ハ此刑
法第三百八十八條ニ確定シタル規則ニ原キテ贖金

及ヒ刑罰ニ處セララル

醫官ノ允許ヲ得テ種痘ニ從事スル者ノ無學ヨリ生
シタル損害アルニ就キ其醫官ハ五十ル―ブル以下
ノ贖金ニ處セララル

而シテ其罪人タル種痘者ハ若シ己レニ命示サレタ
ル規則ヲ遵守セス或ハ注意セサルヨリシテ斯ノ如
キ惡專ノ生スルルキハ七日ヨリ少カラス三週間ヨリ
多カラサル時間ノ拘留ニ處セララル

第八百七十二條 治療ヲ歇メサリシ醫師外科醫産科
醫産婆等カ病者ノ招キヲ受ケテ法律上ノ故障ナク

之ヲ救援スルニ赴カサルルハ初度ニ於テハ十ル
ブル以下ノ贖金再度ニ於テハ五十ル以下ノ
贖金三度ニ於テハ百ル以下ノ贖金ニ處セラ
ル
若シ其者職務ニ在ルルハ之ヲ贖金ニ處スルノ外其
一度以上患者ニ斯ノ如キ怠慢及ヒ輕蔑ヲ顯ハスニ
就テハ免職ニ處スルヲ得可シ

第八百七十三條 產婆ノ招キヲ受ケテ法律上ノ故障
ヲク産婦ノ處ニ赴カサル醫師並ニ招キヲ受ケテ彼
ノ分娩スル無學ノ婦人ヲ助援スルニ赴カサル產婆

或ハ又招キヲ受ケテ赴キタル醫師或ハ產婆ニシテ
未タ分娩ノ終ラサル前及ヒ未タ緊要ノ規則ヲ行ハ
サル前ニ産婦ヲ見放ス者モ亦前文第八百七十二條
ニ定メタル贖金ニ處セララル可シ

第八百七十四條 若シ郡邑醫都會醫或ハ警察醫ハ警
察ヨリ法律上ノ要求ヲ受ケテ特別ナル法律上ノ故
障ナク裁判醫術上ノ糾追ヲ爲スニ赴カス又裁判所
ノ言渡ニ由テ罰セラル、犯人ヲ救援スルニ赴カサ
ルルハ三箇月在職時間ノ減殺ニ處セララル

若シ又郡邑醫都會醫或ハ警察醫ノ不在ニ就キ警察

ヨリ招カル、所ノ私醫ハ斯ノ如キ所爲ヲ以テ罪セラル、キハ五十ル以下ノ贖金ニ處セラル

第八百七十五條 調藥者ノ缺謬不正及ヒ擅用アルヲ見認メテ之ヲ所轄ノ官廳ニ告知セサル醫師或ハ産科醫ハ左ノ罰ニ處セラル但シ其缺謬或ハ擅用ヨリシテ病者ニ損害ヲ蒙ラシム可ク或ハ果シテ蒙ラシメタルキハ然リトス

而シテ即チ其醫師或ハ産科醫ハ之カ爲メニ嚴譴或ハ二十五ル以下ノ贖金ニ處セラル

第八百七十六條 政府ヨリ給料ヲ受ル所ノ醫師産科

醫或ハ産婆ニシテ己カ監視ニ委任サレタル都會郡邑或ハ管轄ニ在ル貧究人ヨリ己カ勞力ノ代リニ拂金ヲ要望スル者又ハ貧究ナラサル者ヨリ法律ニ確定シタルヨリ多ク拂金ヲ要望スル者初度ニ於テハ嚴譴再度ニ於テハ己ノ職業ヲ剝奪セラル

第八百七十七條 若シ産婆ハ難産ノ時ニ在テ産科醫或ハ醫師ヨリ助援ヲ法律上要求セサル可ラサル外科術ヲ自ラ試ムルキハ之カ爲メニ左ノ罰ニ處セラ

ル但シ其地方或ハ其地方ノ近傍ニ産科醫或ハ醫師アルキニハ然リトス而シテ即チ其産婆ハ三十一ル

ブル以下ノ贖金又ハ三週間ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セララル

第八百七十八條 縱令故意ナシト雖モ懷妊ヨリシテ甚タ速ニ分娩セシムルヲ證徴セラレタル産婆ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル
而シテ若シ斯ノ如キ分娩ヨリシテ母或ハ子ノ死スルキハ己カ僧管廳ノ處分ニ依リ寺院ノ懺悔ニ處セララル但シ其者聖教ヲ奉スルキニハ然リトス

第八百七十九條 或ル者カ懷妊ヨリシテ甚タ速ニ分

娩センヲ請ヒ來ルノ場合ニ於テ速ニ其事ヲ所轄ノ官廳ニ告知セサル産婆ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル

第八百八十條 生レタル者ノ奇怪及ヒ非常ナル不具ノ事ヲ都會ノ産科醫或ハ醫藥廳ニ告知セサル産婆ハ十ル一ブル以下ノ贖金ニ處セララル
産婦ガ懷妊ヨリ分娩セスシテ産婆ノ目前ニ死シ或ハ産婆ノ來着セル僅カ以前ニ死シタル場合ノ事ヲ其産婆ヨリ醫師ニ告知セス或ハ緊要ノ時ニアラスシテ告知スルニ就テハ同上ノ贖金ニ屬ス可シ

若シ此時ニ方リ適宜ノ外科術ヲ以テ子ヲ生出シ得可キニ之カ緊要ノ方法ヲ取用セサル産婆ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラル（第一千四百六十九條）

第八百九十二條

調藥術ノ規則ニ由ラスシテ藥品及

ヒ其調合ヲ準備シ又ハ調藥書ニ記載シタル分量或ハ重量ナキ物質又ハ有害ノ物質ヨリシテ藥品ヲ調合シ並ニ不潔或ハ健康ニ害アル器具ヲ以テ藥品ヲ準備スルニ就キ縱令之レヨリ何等ノ有害ナル結果ヲ生セスト雖モ其罪人タル藥舖ヲ管理スル者初度

ニ於テハ十「ル」以下ノ贖金再度ニ於テハ二十「ル」以下ノ贖金三度ニ於テハ百「ル」以下ノ贖金ニ處セラル

若シ管理スル者ニ附屬シタル調藥者ノ不注意或ハ過失ヨリシテ斯ノ如キ事ノ生シタルキハ其調藥者初度ニ於テハ譴責再度ニ於テハ七日ヨリ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ拘留三度ニ於テハ三週間ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セラル

而シテ其管理スル者ハ此場合ニ於テ注意セサルニ

就キ初度及ヒ再度ニ於テハ監察三度ニ於テハ十五
「ル」以下ノ贖金ニ處セララル

第八百九十三條 醫術會議ニ於テ允許シタルモノ、
外「アル」サナ「ト」稱スル秘藥ノ各種ヲ藥舖ニ於テ準備
シ及ヒ藥舖ヨリ發賣スルニ就キ其罪人ハ勸解罰則
第百六條ニ依テ贖金ニ處セララル

第八百九十四條 醫療ヲ營ム權利ヲ有セサル者ノ調
藥書ニ依テ藥品ヲ發賣スルニ就テハ其藥舖ヲ管理
スル者初度ニ於テハ嚴譴再度ニ於テハ二十五「ル」
ブル」以下ノ贖金三度ニ於テハ五十「ル」以下ノ

贖金四度ニ於テハ其者一年間藥舖ヲ管理スルノ權
利ヲ剝奪セララル

若シ又管理スル者ノ承知ナキニ之ヲ爲シタルハ
其罪人タル調藥者初度ニ於テハ譴責再度ニ於テハ
七「ル」以下ノ贖金三度ニ於テハ
十五「ル」以下ノ贖金四度ニ於テハ一年間調藥
術ヲ實行スルノ禁止五度ニ於テハ永ク禁止セララル
而シテ管理スル者ハ注意セサルニ就キ初度ニ於テ
ハ監察再度ニ於テハ嚴譴三度ニ於テハ五「ル」
以下ノ贖金四度ニ於テハ十「ル」以下ノ贖金五

度ニ於テハ其者藥舖ヲ管理スルノ權利ヲ永ク剝奪
 セラル或ハ若シ其者ハ所有主タルキニ其藥舖ヲ所
 有スルノ權利ヲモ永ク剝奪セラル可シ
 罪人タル調藥者ハ已ヨリ出ス可キ贖金ヲ拂フ可キ
 身位ナキ場合ニ於テ其贖金ハ管理スル者ヨリ科ス
 可シ但シ其管理スル者ノ注意セザルカ爲メニ確定
 サレタル贖金アルニ拘ハラストス

第八百九十五條

調藥書ノ寫册或ハ發賣ノ證書アル

藥品ヲ醫師ノ署名ナク發賣スルニ就キ若シ其藥品
 ノ調合ニ劇物ノ入ルキハ其罪人タル藥舖ヲ管理ス

ル者初度ニ於テハ譴責再度ニ於テハ二十五「ル」ブ
 ル以下ノ贖金三度ニ於テハ五十「ル」ブ以下ノ贖
 金四度ニ於テハ一年間藥舖ヲ管理スルヲ禁止セラ
 ル而シテ若シ其者官ノ藥舖ヲ管理スルキハ退職ニ
 處セラル

若シ一ノ調藥者ノミスノ如キ缺謬アル罪人ト證徴
 セラレタルキ初度ニ於テハ譴責再度ニ於テハ五「ル」
 ーブル以下ノ贖金三度ニ於テハ十「ル」ブ以下ノ
 贖金ニ處セラレ四度ニ於テハ一年間調藥術ヲ實行
 スルヲ禁止セラル

藥舖ヲ管理スル者ハ此場合ニ於テ注意セサルニ就
キ第八百九十四條ニ掲載シタル規則ニ依テ罰ニ處
セラル

第八百九十六條 藥品ヲ調合スル各個ノ混交或ハ劇
物ノ分量ニ關シテ疑ハシキ或ハ不分明ナル調藥書
ニ依テ以テ其事ヲハ其調藥書ヲ記載シタル醫師ト
共ニ豫メ明示スルヲナク其藥品ヲ發賣スルノ罪人
モ亦前文第八百九十五條ニ確定シタル贖金及ヒ刑
罰ニ處セラル

第八百九十七條

若シ藥品ヲハ發賣ノ證書ナク或ハ

緊要ノ所爲ヲ以テ栓塞スルヲナク結束スルヲナク
或ハ封印スルヲナク又ハ其他藥品ヲ發賣スル爲メ
ニ定メタル規則ヲ遵守スルヲナク調藥書ニ依テ藥
舖ヨリ發賣スルハ其管理スル者ハ注意セサルニ
就キ其度々ニ五「ルーブル」以下ノ贖金ニ處セラル
而シテ其罪人タル調藥者ハ一「ルーブル」五十「コペー
ク」以下ノ贖金ニ處セラル
藥品ヲ遲延シテ發賣スルノ罪人モ亦同上ノ贖金ニ
處セラル可シ

第八百九十八條

一ノ藥品ヲ他ノ藥品ノ代リニ誤テ

發賣スルニ就テハ縱令之レヨリシテ何等ノ害ヲモ
 生セスト雖モ其藥舗ヲ管理スル者初度ニ於テハ譴
 責再度ニ於テハ嚴譴及ヒ百「ル」以下ノ贖金ニ
 處セラル三度ニ於テハ藥舗ヲ管理スルノ權利ヲ剝
 奪セラレ或ハ若シ其管理スル者ハ藥舗ノ所有主タ
 ルキニ其藥舗ヲ所有スルノ權利ヲ剝奪セラル可シ
 藥舗主ノ補助人ハ初度ニ於テハ監察再度ニ於テハ
 七日ヨリ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ拘
 留三度ニ於テハ二週間ヨリ少カラス三箇月ヨリ多
 カラサル時間ノ拘留ニ處セラレ四度ニ於テハ調藥

術ヲ實行スルヲ禁止セラル

書生ハ之カ爲メニ初度ニ於テハ譴責再度ニ於テハ
 七日ヨリ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ拘
 留ニ處セラル三度ニ於テハ三週間ヨリ少カラス三
 箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セラレ且其職
 業ヲ剝奪セラル

第八百九十九條 若シ前文第八百九十二條ヨリ第八
 百九十八條ニ至ルノ各條ニ掲載シタル缺謬ヨリシ
 テ人ヲ死セシムルキニ其罪人ハ斯ノ如キ缺謬アル
 ニ就キ其各條ニ確定シタル贖金或ハ刑罰ニ處セラ

ル、ノ外若シ其聖教者タルハ己カ僧管廳ノ處分ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處セラル

第九百條 若シ發賣シタル藥品ノ代リニ藥品ノ定價

ヨリ多ク拂金ヲ受領シタル事ノ發露スルハ其罪

人タル藥舖ヲ管理スル者ハ定價外ノ價ヲ極ムルニ

就キ過額ニ對照シテ二倍以下ノ金額ヲ科セラル

若シ又一ノ調藥者ノミ之ヲ以テ罪セラレタルハニ

其調藥者ハ斯ノ如キ贖金ヲ科セラル而シテ管理ス

ル者ハ注意セサルニ就キ五「ル」以下ヲ科セラ

ル

調藥者カ己ヨリ出ス可キ贖金ヲ拂フ可キ身位ナキ

場合ニ於テハ其贖金ヲ管理スル者ヨリ科ス可シ但

シ其管理スル者ハ注意セサルニ就キ出ス所ノ贖金

アルニ拘ハラストス藥品ノ代リニ拂フ可キ價ヨリ

貴ク拂ヒシ者ハ各場合ニ於テ己カ出シタル貨幣ノ

返却ヲ罪人タル藥舖ヲ管理スル者ヨリ要求スルノ

權利ヲ有ス可シ

第九百八十六條 法律ヲ以テ全ク禁シ或ハ一官府ニ

ノミ任シタル武器ヲ製造シ又ハ政府ヨリノ允許ナ

ク火藥或ハ砲礮彈、柘榴彈又ハ其礮ニ屬スル器具ヲ

準備スル者ハ若シ其準備シタル武器及ヒ砲礮彈等ノ量額甚タ些少ナルキニハ八箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラレ政府ノ允許ナク火器ノ物品即チ綿絮及ヒ其他ノ貯品ヲ竊ニ準備シ並ニ其物品ヲ特許ナク貯存スルヲ證徴セラレタル者ハ同上ノ罰ニ處セラレ可シ

第九百八十八條 傷害ヲ加フルノ故意ヲ以テ犬或ハ其他ノ動物ヲ嗾唆シ人ヲ嚙嚼セシムル者ハ故意ヲ以テ疵傷ヲ負ハセ或ハ不具トナスニ就キ此刑法第九百七十七條第九百七十八條第九百八十條

第九百八十一條及ヒ第九百八十二條ニ定メタル規則ニ原キテ罰ニ處セラレ

第九百八十九條 勸解罰則第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ニ掲載シタル違罪ヲ遂ルニ就キ或ル者ヲ死去セシムルノ場合ニ於テハ不注意ノ殺害ニ就キ身安及ヒ民安ヲ保護スルノ規則ヲ犯スヲ以テ此刑法第九百六十六條ニ確定シタル罰ニ處セラレ

第五十七 過失殺傷ノ罪

○佛蘭西

第三百十九條 疎忽疎虞懈怠又ハ規則ヲ循守セサル事ニ因リ故意ニ非シテ人ヲ殺シ又ハ人ヲ殺スノ原由ヲ爲ス者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル且五十「フランク」ヨリ少ナカラス六百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ旨渡ヲ受ク可シ

第三百二十條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 疎忽又ハ疎虞ニ因テ人ヲ創傷シ又ハ毆撃シタル時

ハ其犯人六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラ
ス百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又
ハ其刑中ノ一箇ノミノ言渡ヲ受ク可シ

○獨逸

第二百二十二條 蠱忽懈怠ニヨリ人ヲ死ニ致シタル
者ハ三年ヨリ短カラサル時間徒刑ニ處ス可シ
如シ其犯人己レノ官職工業ノ務ニヨリ注意ス可キ
ヲ懈リタルキハ五年ノ禁獄ニ加等スルヲ得可
シ

第二百三十條 蠱忽懈怠ニ因テ人ヲ傷シタル者ハ三
百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金又ハ二年ヨリ長カ
ラサル禁獄ニ處ス可シ

若シ其傷ヲナシタル犯人職務職業又ハ工業ニヨリ
特ニ注意ス可キヲ怠リタル時ハ三年ヨリ長カラサ
ル禁獄ニ處ス可シ

第二百三十一條 何レノ場合ヲ論セス傷ヲナシタル
時ハ本刑ノ外裁判所ニ於テ其傷害ヲ被リタル者ノ
求メニヨリ其者ノ爲メニ二千「ターレル」ニ至ル償金

ヲ命スルヲ得可シ

此場合ニ於テハ傷害ヲ被リタル者其餘ノ償金ヲ取
ルヲ得ス

其償金ヲ出ス可ク命セラレタル者多衆ナレハ皆連
帶ス可シ

第二百三十二條 故ヲニ輕傷ヲナシ並ニ鑿忽懈怠ニ
ヨリテ傷ヲナシタル者ハ其訴ヲ待テ罪ヲ論ス可シ
〔第二百二十三條第二百三十條〕

若シ其犯人職務職業又ハ工業ニヨリ特ニ注意ス可
キ義務アル時ハ此例ニアラス

第一百九十五條第一百九十六條及ヒ第一百九十八條ノ條
々ヲ此條ニ記載シタル場合ニモ亦通シテ用フルヲ
得可シ

○白耳義

第四百十八條 凡過失ニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ過失
殺傷ヲ以テ論シ罪ヲ科ス可シ

第四百十九條 凡意外ニ出テ人ヲ殺ス者ハ三月ヨリ
二年迄ノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ一千「フランク」
迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十條 凡意外ニ出テ人ヲ毆傷スル者ハ八日ヨリ二月迄ノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑ニ處ス可シ

第四百二十一條 凡死若クハ篤疾ヲ起ス可キ物質ヲ用ヒ意外ニ出テ人ヲ疾病ニ致シ若クハ動作ノ害ヲ生スル者ハ八日ヨリ一年迄ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑ニ處ス可シ

○埃及

第二百十三條 疎忽疎虞懈怠ニ因リ及ヒ規則ヲ遵守セサルニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺セシ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第二百十八條 疎忽疎虞懈怠ニ因リ又ハ規則ヲ遵守セサルニ因リ人ニ創傷ヲ被ラシメシ者ハ一週ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

○英吉利

凡法ニ於テ爲ス可キ事ヲ爲シ及ヒ實ニ思慮ノ及ハサル所ニシテ人ヲ誤殺スル者ハ並ニ其罪ヲ免ス假令ハ斧ヲ把テ薪木ヲ割ルニ其斧頭飛脱シテ旁人ヲ殺シ或ハ標的ニ向テ弓銃ヲ發ツニ突然ト人アリ其道ニ出テ依テ殺ス者ノ類ヲ謂フ

凡父師ノ子弟子ヲ教導スルニ依テ之ヲ毆答シ或ハ法官ノ罪犯ヲ決罰スル等法ニ依リ事ヲ行フテ因テ死ニ致ス者ハ並ニ誤殺ト爲シテ其罪ヲ免ス其毆ツ可ラサル所ヲ答テ若クハ兇器ヲ以テ撃テ或ハ過度ニ決罰ヲ加ヘル等非法ニ事ヲ行フテ因テ死ニ致ス者

ハ並ニ毆殺ト爲シ其罪ニ坐ス事情惡ム可キ者ハ仍ホ謀殺罪ト爲シテ論ス

凡法ニ於テ爲ス可ラサル事ヲ爲シ因テ誤テ人ヲ死ニ致ス者ハ無心鬪毆殺ト爲シ重罪ニ坐シ鬪毆殺ヲ以テ論ス假令ハ二人金刃ヲ振ヒ遊戯シテ因テ誤テ人ヲ殺ス者ノ如キヲ謂フ
若シ法ニ於テ爲ス可キ事ヲ爲スト雖モ法ニ依テ其事ヲ行ハス若クハ思慮ヲ用ヒスシテ因テ誤テ人ヲ死ニ致ス者モ亦無心鬪毆殺ト爲シ其事情ニ依テ過誤鬪毆謀殺罪等ニ坐ス假令ハ工匠ノ村里人行稀少

ナル所ニ於テ豫メ報知シテ屋上ヨリ瓦石材木等ヲ
投擲シテ下ニ人アリ死ニ致ス者ハ乃チ誤殺ト爲ス
如シ都下人行盈滿ノ地ニ於テハ豫メ報知スト雖モ
如シ死ニ致ス者ハ乃チ鬪毆殺ヲ以テ論ス
如シ下ニ人アルヲ知リ告知セスシテ瓦石材木等
ヲ投擲シ因テ死ニ致ス者ハ乃チ謀殺ヲ以テ論スル
ノ類ヲ云フ

凡醫官藥法ヲ失錯シ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ誤殺ヲ以
テ論スト雖モ如シ庸醫未タ其道ニ精通セス或ハ其
心ヲ用ヒスシテ人ヲ治療シ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ

鬪毆殺ヲ以テ論ス

〇魯西亞

第千四百六十八條 若シ法律ヲ以テ禁止セラレサル
所行ニシテ有害ノ結果ヲ生スルヲ能ハサルカ如キ
不注意ノ所行ヨリ或人ヲ死セシムルハ緊要ナル
豫戒ノ方策ヲ取用セサル一名或ハ數名ノ罪人ハ之
カ爲メニ事ノ情實ニ依リ及ヒ此刑法第百十條ニ掲
載シタル規則ニ從ヒ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨ
リ多カラサル時間ノ禁獄或ハ三日ヨリ少カラス三

箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留又ハ法廷ノ嚴譴ニ
處セララル

各場合ニ於テ若シ其罪人ハ聖教中ノ一二属スルキ
ハ己カ僧管廳ノ處分ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處セララル
第千四百六十六條 殺害ヲ爲スノ故意ナク身安及ヒ
民安ヲ保護スルノ規則ニ背反スル所行ヲ爲シテ縱
令期セサルノ結果ナルモ人ヲ死セシムルニ至ル者
ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間
ノ禁獄ニ處セララル

然レモ若シ定規ニ背反スル所行ニ就テ他ノ一層嚴

重ナル罰ヲ法律ニ於テ確定セララル、キハ合犯ノ規
則ニ原キテ其嚴重ノ罰ニ處セララル
各場合ニ於テ若シ其罪人聖教中ノ一二属スルキハ
己カ僧管廳ノ見込ニ依テ寺院ノ懺悔ニ處セララル
第千四百七十條 故意ナキノミナラス何等ノ不注意
モナク偶然ニ人ヲ死セシムル者ハ之カ爲メニ何等
ノ罰ニモ處セラレス而シテ自己ノ望願ニ由ル歟或
ハ己カ僧管廳ノ特規ニ由テノミ寺院ノ懺悔ニ處セ
ラル、ヲ得可シ

第千四百九十四條 縱令不具ニナシ疵傷ヲ負ハセ或

ハ其他健康ヲ害スルノ故意ナシト雖モ民安ヲ保護
スルノ規則ニ背反スル所行ヲ爲シテ遂ニ期スルコ
トナク或ル者ニ多少ノ疵傷ヲ負ハセ或ハ之ヲ不具ニ
ナシ又ハ其健康ヲ害スルニ至ル者ハ其犯則及ヒ傷
害ノ輕重ニ依リ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多
カラサル時間ノ禁獄或ハ七日ヨリ少カラス三箇月
ヨリ多カラサル時間ノ拘留或ハ法廷ノ譴責ニ處セ
ラル

然レモ若シ其規則ニ背反スル所行ニ就テ法律ニ他
ノ一層ノ嚴重ナル罰ヲ確定スルキハ合犯ノ規則ニ

原キテ其嚴罰ニ處セララル第百五十二條

第千四百九十五條 密ニ故意ナキノミナラス何等ノ
不注意モナクシテ偶然ニ或者ヲ不具ニナシ或ハ之
ニ疵傷ヲ負ハセ或ハ其他健康ヲ害スル者ハ之カ爲
メニ何等ノ罰ニモ處セラレス而シテ此前文第千四
百七十一條ニ確定シタル場合ニ於テ不具ニナシ及
ヒ疵傷ヲ負ハセタルモ亦何等ノ罰ニモ處セラレス

第三百三十五條 凡ソ人某所爲若クハ某怠惰ハ事實

○墾地利千八百五十二年五月二十七日布告

當然ノ理或ハ特ニ公布セラレシ規則ニ本ツキ又ハ其地位官務職掌家業職業爾他凡身上ノ關係ヲ以テ人命若クハ健康身体安寧等ニ反シテ危害ヲ生シ得可キカ或ハ其患ヲ增長セシム可キヲ知リナカラ猶ホ之ヲ犯シテ他人ノ身体ニ重傷第百五十二條ノ如クヲ負ハシメシキハ之ヲ違式罪トシ一月以上六月以下ノ禁獄ニ處ス可シ又其死亡ヲ致セシキハ輕罪トシ六月以上一年以下ノ重禁獄ニ處ス可シ

第三百三十六條 前條ノ規則ヲ以テ論ス可キノ最モ著大ナルモノハ左ノ所業ニ於テ死亡或ハ身體重傷

ヲ負ハシメシキトス

(イ) 閉鎖セル狹隘中ニ熾燃セル炭火ヲ注意セス畜へ置ク事

(ロ) 河中舟行ノ際須要ノ注意ヲ欠ク事

(ハ) 蒸氣船蒸氣器械及ヒ氣罐ニ關シ其規則及ヒ特ニ須要措ク可ラサル注意ヲ惰ル事

(ニ) 硫黄ヲ嗅シメ或ハ魔藥ヲ施スニ方リ注意セサル事

(ホ) 捕獸器落筭狼筭自發銃等ノ設ケヲ爲シテ其告知標ヲ爲サ、リシ時

(ハ) 花火氣發銃雷管摩擦點火木附木凡摩擦ヲ以テ容易ク放火ス可キ物体焰硝爾他破裂物等ノ調製蓄藏賣買運輸及ヒ使用等ニ於ル特別ノ規則不注意殊ニ這的ノ物品ヲ密ニ遞送或ハ鐵道ノ荷物ニ包裹セシ時

(ト) 鑛山ノ工事ニ關セル規則ノ不注意

第三百三十七條 第三百三十五條ノ規則ニ從ヒ罪科

ト爲ス可キ所業或ハ怠惰ノ若シ第八十五條其ハ號

第八十七條及ヒ第八十九條ニ掲載セル物品ニ關係

スルカ或ハ同條中ニ記載セル特ニ危險ノ場合ニ於

テ犯セシ時ハ假令之ニ因テ生スル害ハ唯身体ニ止

ルト雖モ尙ホ輕罪トシ六月以上二年以下ノ重禁獄

ニ處ス可シ

第三百四十一條 凡車上不注意ヲ以テ某甲ヲ轉轍シ

或ハ馬行中蹈躡シテ死若クハ重傷ヲ負ハシメシ者

ハ第三百三十五條ニ從テ之ヲ刑ス可シ

第三百四十二條 其糺彈ヲ爲スニ方リ事故出來ノ原

由蓋シ車馬疾行ノ故ニ係ルヲ顯然ナリシキハ之ヲ

加等ノ情狀トシ論ス可シ但シ處刑判決ハ特ニ第四

百二十七條車馬疾行律ニ準據シテ之ヲ定ム可シ

〇印度

第三百三十六條 粗暴輕忽他人ノ生命或ハ其身体ノ安全ヲ危フスル如キ所爲ヲ行フ者ハ三個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ二百五十「リユ―ピ―」ニ過キササル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百三十七條 他人ノ生命或ハ其身体ノ安全ヲ危フスル所爲ヲ行ヒ因テ之ヲ損傷スル者ハ六個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ五百「リユ―ピ―」ニ過キササル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百三十八條 他人ノ生命或ハ其身体ノ安全ヲ危フスルノ所爲ヲ行ヒ因テ之ヲ重損傷スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユ―ピ―」ニ過キササル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

〇加利堡爾尼

第百九十二條 過誤殺トハ害意ナクシテ人ヲ横殺スル者ヲ言フ過誤殺ニ左ノ二類アリ

第一 有意ノ過誤殺

人情ニ於テ一時忍耐ス可ラザルノ凌辱傷害ヲ施
サレ若クハ施サレントシテ怒火盛熾ニ昏懵シ忽
チ其人ヲ殺スニ至ル者

第二 無意ノ過誤殺

大罪ニ至ラサル不適法ノ事ヲ行フノ間ニ誤テ人
ヲ殺シ若クハ其行フ所ノ事能ク法ニ適スト雖モ
或ハ巨害ヲ含メル事ニシテ之ニ適當ノ注意戒慎
ヲ用ヒス不適法ニ之ヲ施行シテ遂ニ人ヲ殺スニ
至ル者

第九十五條 左ノ二殺罪ハ原免ス可キ者トナス

第一 適法ニ子女從僕ヲ誨規シ若クハ適法ニ適法
ノ事ヲ行フノ間未タ毫モ通常ノ注意ヲ怠ラス不
適法ノ企意ヲ含マサルニ偶然ノ不幸ニ由テ之ヲ
殺死スルニ至ル者

第二 略ス

第五十八 決闘ノ罪

○獨逸

第二百一條 人ヲ殺ス可キ兵器ヲ以テ決闘ヲ挑唆シ

タル者並ニ其挑唆ニ應シタル者ハ六月ヨリ長カラ

サル監禁ニ處ス可シ

第二百二條 決闘ヲ挑ミタルキ一方ノ者ヲ死ニ致ス

可キ意ヲ陳述シ而シテ其約シタル決闘ノ種類ニ依

リ其意判然タルキハ二月ヨリ一年ニ至ル監禁ニ處

ス可シ

五〇三
第二百三條 決闘ノ挑唆ヲ司リ又其事ヲ一方ノ者へ

傳へタル者決闘ノ仲人ハ六月ヨリ長カラサル監禁ニ處ス可シ

第二百四條 決闘ヲ挑唆シタル者及ヒ之ニ應シタル者並ニ其仲人タル者若シ其決闘者ノ雙方鬭爭ヲ始メサル前本心ヨリ抛棄シタルハ其刑ヲ免ス可シ

第二百五條 決闘ノ刑ハ三月ヨリ短カラス五年ヨリ長カラサル監禁ニ處ス可シ

第二百六條 決闘ニ於テ一方相手ヲノ者ヲ殺シタル者ハ二年ヨリ短カラサル監禁ニ處シ若シ決闘ニ於テ決闘者ノ一方ノ者ヲ必ス死ニ致ス可ク爲シタル

ハ三月ヨリ短カラサル監禁ニ處ス可シ

第二百七條 決闘者ノ一方ノ者決闘ニ付契約シタル規則又其慣習ノ規則ヲ故ラニ犯シテ其相手ヲ殺シ又傷シタルハ故殺鬭毆傷鬭毆等ノ一般ノ條々ニ循テ論ス但其刑前數條ニ掲載シタル刑ヨリ輕キハ此例ニ非ス

第二百八條 若シ介副人ナクシテ決闘ヲ爲シタルハ本刑ヲ其央ニ加増スルヲ得可シト雖モ十年ニ過ル可ラス

第二百九條 決闘ヲ正實ニ止メルヲ盡力シタル仲

人並ニ其決鬪ニ立會ノ爲メニ迎ヘラレタル證人醫師及ヒ外科醫師ハ皆其罪ヲ免ス可シ

第二百十條 故ヲニ耻辱ノ徵候ヲ以テ又ハ耻辱タルヲ脅迫シテ或ル人ヲシテ他人ト決鬪ス可キヲ教唆シタル者若シ決鬪ヲ爲シタレハ其教唆者ハ三月ヨリ短カラサル監禁ニ處ス可シ

○白耳義

第四百二十三條 凡決鬪セント挑ム者ハ十五日ヨリ三月迄ノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランク

迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十四條 凡決鬪ヲ諾セサル者ヲ衆ニ誹謗スル者ハ罪前條ニ同シ

第四百二十五條 凡人ニ失敬ヲ加ヘ因テ決鬪ヲ乞フニ致ス者ハ一月ヨリ六月迄ノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十六條 凡兵器ヲ持シ決鬪ニ臨ムト雖モ其殺傷セサル者ハ一月ヨリ六月迄ノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

若シ兵器ヲ持セス決鬪ニ臨ム者ハ第四百二十三條

ノ法ニ處ス可シ

第四百二十七條 凡決闘ヲ爲シ傷ヲ被ラシムル者ハ
二月ヨリ一年迄ノ獄ニ處シ三百フランクヨリ一千
五百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十八條 凡闘傷シ因テ疾病若クハ動作ヲ害
スルニ致ス者ハ三月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ五百フ
ランクヨリ二千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十九條 凡闘傷シ因テ命ニ關スル篤疾若ク
ハ終身癱疾ニ致シ若クハ機器ヲ失ハシメ若クハ四
支ヲ折ル者ハ六月ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ一千フラ

ンクヨリ三千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十條 凡決闘シ死ニ致ス者ハ一年ヨリ五年
迄ノ獄ニ處シ二千フランクヨリ一万フランク迄ノ
罰金ヲ命ス可シ

第四百三十一條 凡方略ヲ用ヒ決闘ニ誘導スル者ハ
其決闘者ト同罪トス

若シ誘導スト雖モ決闘ニ至ラシメサル者ハ一月ヨ
リ一年迄ノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フラン
ク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十二條 凡第四百二十七四百二十八四百二

十九及七百四十條ノ決闘ニ會シ證據人ト爲ル者
ハ一月ヨリ一年迄ノ獄ニ處シ一百「フランク」ヨリ一
千「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十三條 凡第四百二十三條以下ノ法ヲ犯ス
者ニシテ第五十九條ノ期ヲ過キス更ニ決闘律ヲ犯
ス者ハ以上ノ數條ニ依リ其最モ重キニ處ス可ク若
クハ其最モ重キヲ倍科スルコトアリ

○英吉利

凡文書ヲ送リ争鬪ヲ挑ミ言語及ヒ爲メニ之ヲ遞送ス

ル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處斷ス其事情ノ
輕重ニ從テ期數ヲ定ム

若シ二人豫メ鬪毆ヲ爲サント期シ後之ヲ行フ者ハ
自ラ人ヲ殺サント欲スルノ意アルニ似タリ因テ鬪
毆ノ最モ大ナル者ト爲シ重罪ニ坐ス

○墺地利千八百五十二年五月二十七日布告

第百五十八條 其起因何等ノ事件ニ係ルヲ問ハス凡
ソ人ヲ殺害ス可キ兇器ヲ執リ某甲ニ對シ相鬪ハン
コトヲ挑ム者及ヒ斯ノ挑撥ニ應シテ相鬪フコトヲ許ス

者皆二人闘ノ重罪ヲ犯ス者トス

第百五十九條 前條ノ重罪ヲ犯スト雖モ更ニ疵傷ヲ

キニ於テハ六月以上一年以下ノ徒刑ニ處ス可シ

第百六十條 若シ又疵傷ヲ生スルニ於テハ一年以上

五年以下ノ徒刑トス然レモ第百五十六條ニ掲載セ

シ結果ノ一ヲ生スルニ於テハ五年以上十年以下ノ

重徒刑ニ處ス可シ

第百六十一條 二人闘ニ於テ其一人死スルニ於テハ

他ノ一人ハ故殺者トシ十年以上二十年以下ノ重徒

刑ニ處ス可シ

第百六十二條 總テ二人闘ニ於テ其挑撥人ノ刑期ハ

挑撥セラレシ者ヨリ常ニ長カル可シ

第百六十三條 凡二人ノ一ヲ鼓舞シテ闘ヲ挑マシメ

若クハ其レヲシテ果シテ闘地ニ現レシメ爾他故ラ

ニ之ヲ輔翼シ或ハ他ノ挑撥ヲ避ント欲スル者ニ輕

侮ヲ示シ強テ之ニ應セシムル者ハ六月以上一年以

下ノ徒刑トス然レモ其誘拐ノ力特ニ甚フシテ傷或

ハ死ヲ致サシムルニ於テハ一年以上五年以下ノ徒

刑ニ處ス可シ

第百六十四條 所謂二人闘助力者ト爲リ其一方ノ爲

ノ戦闘ニ臨ム者ハ六月以上二年以下ノ徒刑ニ處ス
可シ但シ其關係ノ多少犯爲ノ淺深ニ應シ延テ五年
ノ期ニ至リ得可シ

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ本罪ノ處刑ヲ要セ
サルモノトス

(イ) 果シテ闘ノ準備ヲ爲サ、レハ挑闘人モ亦處刑
ヲ要セス

(ロ) 挑闘人及ヒ被挑人共闘ノ準備ヲ爲スト雖モ其
交接ニ及ハサル前ニ於テ和解スルニ於テハ皆處
刑ヲ要セサルモノトス

(ハ) 爾他關係者ハ勉メテ和解ヲ講シ果シテ能ク闘
ニ至ラシメサルニ於テハ亦之ヲ無罪トス

○加利堡爾尼

第二百二十五條 凡決闘トハ彼我二名以上ノ人員ノ
私争ヲ主張シ乃チ豫メ相約シテ皆兇器ヲ執リ闘テ
以テ死生ヲ決スル者ヲ言フナリ

第二百二十六條 決闘ヲ行フテ其對手ヲ殺シ若クハ
之ヲ傷ケテ以テ其一年有一日以内ニ死スルヲ致
ス者ハ一年以上七年以下ノ禁固ヲ科ス

第二百二十七條 凡決闘ヲ行フ者ハ未タ殺傷ヲ致サ
スシテ止ムト雖モ一年以下ノ禁固ヲ科ス

第二百二十八條 凡決闘ヲ行ヒ若クハ決闘ヲ挑ミ若
クハ決闘ノ挑ミヲ容レ若クハ決闘ノ助手タル者ハ
並ニ永ク本州ニ就官スルヲ得ス又其投票權ヲ本
州ニ施行スルヲ許サス

第二百二十九條 凡ソ人ノ敢テ決闘ヲ行ハス敢テ決
闘ヲ挑マス若クハ敢テ決闘ノ挑ミヲ容レサルヲ
誹謗シテ之ヲ頒布貼示シ或ハ責罵侮慢ノ詞ヲ用ヒ
テ以テ人ノ敢テ挑闘容挑セサルヲ罵リ若クハ之カ

憤怒ヲ激發セント欲シテ之ヲ行フ者ハ口述筆述印
刷ヲ分タス並ニ小罪ト爲ス

第二百三十條 審官保安審官成法官若クハ其它保安
ヲ掌ルノ官吏若シ決闘ヲ企圖スル者アルヲ知テ肯
テ其官權ヲ張テ之ヲ拿捕遏止スルヲ勉メサル者
ハ並ニ一千元以下ノ罰金ヲ命ス

第二百三十一條 凡此章ノ諸條例ヲ避ント欲シテ本
州ヲ去リ境外ニ在テ此章ノ禁スル所ヲ犯ス者ハ事
本州ニ在ラスト雖モ其刑正ニ本州ニ在テ之ヲ犯ス
者ニ同シ

第二百三十二條 此章ノ諸條例ヲ犯セル者ノ推究審問ニハ其證人決シテ自己ノ罪ノ發覺ヲ口實トシテ口ヲ審訊ニ拊ムコトヲ得ス然レモ審官モ亦其證人ノ證告スル所ヲ以テ他日其證人ノ公證セラレタルモハ有罪ノ證トスルコトヲ得ス

〇魯西亞

第千四百九十七條 此下文第千四百九十九條ニ掲載シタル場合ヲ除クノ外何等ノ事故アルモ或者ニ對圖ヲ挑ミシキ若シ其挑ミタル者ニ關セサル情實アルカ爲メナルモ其挑ミヨリ何等ノ結果ヲモ生セザリシキハ三日ヨリ少カラス七日ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セララル

若シ其挑ミヨリシテ對圖アリシト雖モ流血ナク終リシキハ三週間ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セララル
再度斯ノ如キ背法ノ所行アルヲ證徴セラレタル者ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル

第千四百九十八條 若シ口論ヲ始メニ起セシ者挑ミ

タルハ前文第千四百九十七條ニ確定シタル罰一
等或ハ二等加重セララル

第千四百九十九條 若シ挑闘者面辱ヲ受ケ又ハ其者
ノ父母或ハ其他ノ正統尊族或ハ妻或ハ許嫁ノ婦或
ハ姊妹或ハ女子又ハ子或ハ兄弟ノ婦妻ノ姊妹或ハ
其後見ニ任セラレタル者ノ侮辱ヲ受ケシニ由テ對
闘ヲ挑ミ而シテ其挑ミヨリ結果ヲ生セサリシハ
其挑ミタル者何等ノ罰ヲモ免レ又ハ只一日ヨリ少
カラス三日ヨリ多カラサル時間ノ拘留ノミニ處セ
ラル

第千五百條 故意ヲ以テ或者ニ對闘ヲ教唆スルヲ證
徴セララル、者ハ左ノ罰ニ處セララル但シ其教唆ヨリ
果シテ對闘ヲ生スルノ場合ニ於テハ其事ノ情實ニ
依リ一年四箇月ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル
時間ノ城寨禁錮ニ處セラレ或ハ四箇月ヨリ少カラ
ス一年四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラ
ル
對闘ノ發端トナスノ目的ヲ以テ他ノ者ニ甚キ侮辱
ヲ加フ可キヲ或者ニ故意ヲ以テ勸説或ハ教唆セシ
者モ亦同上ノ罰ニ處セララル可シ但シ其勸説或ハ教

唆ヨリシテ對鬪アルキニハ然リトス

第一千五百一條 知テ他ノ者ニ對鬪ヲ挑ム者ハ對鬪ヲ

挑ムニ就キ第一千四百九十七條ニ確定シタル罰ニ處

セラル

但シ其者ハ此時ニ方リ挑鬪ノ發端トナリシ口論ヲ
媾和ニテ止ムルヲ得可キ方略ヲ使用セス又ハ或ル
他ノ方略ヲ以テ挑鬪ノ結果ヲ豫防セサリシキニハ
然リトス

第一千五百二條 挑ミニ應シテ對鬪ニ向フ者ハ既ニシ

テ已レニ關セサル情實アルカ爲メナルモ其對鬪ヲ

爲サ、リシキニハ一日ヨリ少カラス三日ヨリ多カ
ラサル時間ノ拘留ニ處セラル

而シテ若シ已レノ抵抗者ニ對シテ既ニ兵器ヲ脱裝

或ハ使用セシト雖モ其對鬪ハ流血ナク終リシキハ

三日ヨリ少カラス七日ヨリ多カラサル時間ノ拘留

ニ處セラル

第一千五百三條 對鬪ヨリシテ遂ニ死セシメ或ハ不具

ニ致シ或ハ重傷ヲ負ハシムルニ就キ其對鬪ノ發端

トナル可キ侮辱ヲ加ヘタル罪人又ハ若シ其侮辱ヲ

加ヘタル者ヲ人ノ熟知スルヲ能ハサル場合ニ於テ

ハ其對鬪ヲ挑ミタル罪人ハ死セシムルノ場合ニ於テハ四箇月ヨリ少カラス六箇月ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セラル

而シテ不具ニナシ或ハ重傷ヲ負ハシムルノ場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セラル

若シ又其罪人ハ對鬪ノ原因タルニアラス而シテ其罪人ノ抵抗者ヨリ挑マレタルキニ即チ其抵抗者ヲ死セシムルノ場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セラル

而シテ其抵抗者ヲ不具ニナシ或ハ之ニ死ニ至ラサル重傷ヲ負ハシムルノ場合ニ於テハ八箇月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セラル

第一千五百四條 對鬪ヲ挑ムニ方リ必ス一方ノ死ヲ以

テ其對鬪ヲ終ル可キノ約束ヲ定メ而シテ遂ニ果シテ一方ヲ死セシムルニ至リ或ハ死ス可キ疵傷ヲ負ハシムルニ至ルノ罪人ハ若シ其約束ヲ始メタルキニハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セラル

而シテ若シ其約束ヲ受ケタルノミノキニハ六年八箇月ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セララル

對鬪ノ證據人タリシ者ハ斯ノ如キ約束ヲ容ルスニ就キ二年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處セララル

第千五百五條 縱令流血ナク對鬪ヲ終ルト雖モ只被傷者ノ性命ヲ危殆ニセス及ヒ不具ニモセス又健康ヲモ大ニ害セサル可キ輕傷ヲ負ハセタルノミニシテ對鬪ヲ終ルノ罪人ハ左ノ罰ニ處セララル

對鬪ノ發端トナル可キ侮辱ヲ加ヘタル者或ハ若シ其侮辱ヲ加ヘタル者ヲ熟知スルヲ能ハサルキニハ其對鬪ヲ挑ミタル者ハ八箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄或ハ城寨禁錮ニ處セララル

而シテ其他ノ者ハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄或ハ城寨禁錮ニ處セララル
第千五百六條 若シ對鬪ニ向ヒシ者或ハ對鬪ニ向フ可キヲ約セシ者ハ己レニ關セサル情實アルカ爲メニアラスシテ自己ノ發心或ハ證據人ノ助言及ヒ教

唆ニ由テ流血ナク媾和シ及ヒ其對鬪ヲ停止スルキ
ハ縱令交鬪ニ兵器ヲ脱裝或ハ準備セシ後ト雖モ其
者ハ何等ノ刑罰及ヒ糾追ヲモ免ル可シ

第一千五百七條 對鬪ノ前或ハ對鬪ノ時ニ其對鬪ヲ豫
防或ハ停止シ得可キ方略ヲ使用セサル對鬪ノ證據
人ハ其對鬪ヨリシテ遂ニ一方或ハ雙方ヲ死セシメ
又ハ死ス可キ疵傷ヲ負ハシムルノ場合ニ於テハ四
箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ城
寨禁錮ニ處セラル
而シテ其他ノ總場合ニ於テハ二箇月ヨリ少カラス

四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラル

(注目)被傷者ヲ扶助スル爲メニ呼招セラル、醫師ハ
對鬪ノ證據人ト認知セラレサル可シ

第一千五百八條 若シ對鬪ノ證據人ハ其對鬪ヲ豫防或
ハ停止スル爲メニ勸説シ得可キ方略ヲ使用セサル
ニ於テ證據セララル、ノミナラス其對鬪ヲ開始續行
或ハ恢復スルヲ挑唆スルニ於テ證據セラレタルキ
ハ二年八箇月ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時
間ノ城寨禁錮ニ處セラル

第一千五百九條 證據人ナク對鬪スルニ就キ若シ其對

闘ヨリシテ遂ニ死セシメ或ハ重傷ヲ負ハシムルキ
 ハ必ス死ヲ以テ闘フ可キノ約束ヲ始メ或ハ受ルニ
 就キ此前文第千五百四條ニ確定シタル罰ニ處セラ
 ル
 若シ斯ノ如キ對闘ヨリシテ死セシムルニ至ラス重
 傷ヲ負ハシムルニモ至ラサルキハ一年四箇月ヨリ
 少カラス二年ヨリ多カラサル時間ノ城寨禁錮ニ處
 セラル

第千五百十條

對闘ヲ以テ己ノ抵抗者ヲ殺シ或ハ之

ニ重傷ヲ負ハシムル者ハ第一ノ場合ニ於テハ謀殺

ニ就キ此刑法第千四百五十四條ニ確定シタル罰ノ

最重キモノニ處セララル

而シテ若シ證據人ナク斯ノ如キ對闘ヲナシタルキ

ニハ此刑法第千四百五十三條ニ揭示シタル情實即

チ罪科ヲ重加ス可キ情實アル故殺ニ就テ治定シタ

ル罰ニ處セララル

重傷ヲ負ハシムルノ場合ニ於テハ豫謀ノ故意ヲ以

テ重キ不具ニ致スニ就テ此前文第千四百七十七條

ニ確定シタル罰ニ處セララル

不信實ノ所爲ヲ以テ死セシメ或ハ疵傷ヲ負ハシム

ル原因ヲ助ケタル對鬪ノ證據人モ亦同上ノ主義ヲ以テ同上ノ罰ニ處セララル可シ

第千五百十一條 偶々對鬪ノ時ニ在テ對鬪ニ向ヒシ者ニ媾和ヲ勸説スル爲メニ用ヲナサ、ル者ハ若シ其對鬪ヨリシテ遂ニ死セシメ或ハ重傷ヲ負ハシメタルハ人ヲ危殆ニ陥ル、ニ就キ此下文第千五百二十一條ニ確定シタル罰ニ處セララル

第千五百十二條 挑マレテ對鬪ニ向ハサリシ者或ハ媾和シテ對鬪ヲ止メタル者ヲ言辭或ハ所行ニテ詰責及ヒ侮辱スル者ハ若シ之ヨリシテ對鬪ヲ生スル

ハニハ對鬪ノ教唆ニ就キ前文第千五百條ニ確定シタル罰ニ處セララル

若シ其對鬪ヲ生セサル場合ニ於テハ多少ノ侮辱ニ就テ治定シタル罰ニ處セララル

第五十九 法ニ背キ人ヲ逮捕或ハ禁錮シ及ヒ其他
自主ノ權ヲ害スル罪

○佛蘭西

第三百四十一條 相當ナル官吏ノ命ナク且法律ニ循
ヒ犯人ヲ逮捕ス可キ場合ニ非スシテ人ヲ逮捕シ又
ハ禁錮シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ
法ニ背キテ人ヲ禁錮スル者ニ其場所ヲ貸與ヘシ者
ハ同上ノ刑ニ處セラル可シ

第三百四十二條 若シ一月以上ノ時間法ニ背キ人ヲ
禁錮セシ時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百四十三條 若シ第三百四十一條ニ記シタル犯人未タ其罪ノ訴ヲ受ケサル中其逮捕又ハ禁錮ヲ爲シタル日ヨリ十日ニ至ラサル前ニ其逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ赦宥セシ時ハ其犯人ノ刑ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス可シ

但シ其犯人ニ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百四十四條

第一 衣服ヲ僭用シ姓名ヲ詭リ又ハ官署ノ命ヲ偽

リテ人ヲ逮捕シタル時

第二 逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ殺サント脅迫

シタル時

此等ノ場合ニ於テハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラ

可シ

又逮捕又ハ禁錮ヲ受ケシ者ノ身體ヲ痛苦セシメタル時ハ其犯人死刑ニ處セラ

第三百八十四條 末項

何人ニ限ラス脅迫暴行ヲ以テ人民ノ住所ニ入りタル者ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間

禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ」ヲシク「ヨ」リ少カラズ
二百「フ」ヲシク「ヨ」リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可

〇獨逸

第二百三十九條 故ラニ又ハ非理ニ人ヲ獄ニ繫キ又
ハ他ノ方法ヲ以テ人ノ自由ヲ奪フタル者ハ禁獄ニ
處ス可シ

若シ其自由ヲ奪フタル時間一週日ヲ過キタル時又
ハ其捕縛等ヨリ身體ニ重傷ヲ爲シ又ハ其所爲ニヨ

リ之ヲ爲シタル時ハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處
シ若シ酌量輕減アル時ハ一月ヨリ短カラサル禁獄
ニ處ス可シ

其自由ヲ奪ヒ又ハ其禁獄中ノ所爲ヨリシテ人ヲ死
ニ致シタル時ハ三年ヨリ短カラサル徒刑ニ處シ若
シ酌量輕減アル時ハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處
ス可シ

第二百二十三條 他人ニ屬スル住所職業場圍内又ハ公

役ノ爲メニ設ケタル場所ヲ非理ニ襲フタル者又故
ナク其内ニ入りタルニ因リ其權アル人家主地主及
官吏ヲ云

ヨリ其地ヲ離散ス可ク催スト雖モ離散セサル者
ハ人家ヲ害スル罪トナシ三月ヨリ長ガテサル禁獄
又ハ百「タ」レルヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ
訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

若シ兵器ヲ持シ且多人數ニテ其罪ヲ犯シタル時ハ
一週日ヨリ二年ニ至ル禁獄ニ處ス可シ

○白耳義

第四百三十四條 凡官吏ノ命アルニ非ス若クハ國法
ノ許ス所ニ非スシテ人ヲ捕縛繫獄シ若クハ捕縛繫

獄セシムル者ハ三月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ二十六
「フ」ラシク「ヨ」リ二百「フ」ラシク「迄」ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十五條 凡不法ノ拘執ヲ爲シ十日ヲ過クル
者ハ六月ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ五十「フ」ラシク「ヨ」リ
三百「フ」ラシク「迄」ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十六條 凡不法ノ拘執ヲ爲シ一月ヲ過クル
者ハ一年ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ一百「フ」ラシク「ヨ」リ
五百「フ」ラシク「迄」ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十七條 凡官命ヲ詐稱シ官服ヲ僭着シ官吏
ノ姓名ヲ偽リ或ハ迫ルニ死ヲ以テシテ人ヲ拘執ス

ル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百三十八條 凡人ヲ拘執シ拷打スル者ハ十年ヨ

リ十五年迄ノ懲役ニ處ス可シ

若シ拷打シ因テ篤疾終身廢疾機器損失四支折傷等

ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年迄ノ懲役ニ處ス可シ

若シ因テ死ニ致ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ

第四百三十九條 凡官命ニ非ス國法ノ許ス所ニ非ス

シテ家主ノ承諾ヲ待タス恐喝若クハ暴行若クハ墻

戸ヲ破壊超越シ或ハ偽鍵ヲ以テ常人ノ居家住屋及

ヒ其附属ノ所ニ入ル者ハ十五日ヨリ二年迄ノ獄ニ

處シ二十六フランクヨリ三百フランク迄ノ罰金ヲ

命ス可シ

第四百四十條 凡官命ヲ偽リ官服ヲ着シ官吏ノ姓名

ヲ詐稱シ或ハ夜間ノ所行二人以上ノ所行兇器ヲ持

スル所行ノ三事ヲ兼テ前條ノ罪ヲ犯ス者ハ六月ヨ

リ五年迄ノ獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フラン

ク迄ノ罰金ヲ命シ且第三十三條ノ奪權ニ處シ五年

ヨリ十年迄ノ警察ヲ受ケシムルコアリ

第四百四十二條 凡第四百四十條ノ犯罪ヲ爲サント

試ル者ハ一月ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ五十フランク

ヨリ三百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百四十二條

凡所有主及ヒ稅戶居住スル者

承諾ヲ請ハス第四百三十九條ニ枚擧スル家屋等ニ

入り夜間人ニ認メラル、者ハ十五日ヨリ二年迄ノ

獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランク迄ノ罰

金ヲ命ス可シ

○埃及

第三百四十九條

何人ニ限ラス相當ナル官吏ノ指令

ナク且別段ノ法式ニ循ヒ犯罪被告人ヲ逮捕ス可キ

法律及ヒ規則外ノ場合ニ於テ人ヲ逮捕又ハ禁錮シ

タル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時

間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十條

何人ニ限ラス枉ニ人ヲ禁錮スル場所

ヲ故ラニ貸與ヘタル者ハ三月ヨリ少カラス三年ヨ

リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十一條

第二百四十九條ニ記シタル場合ニ

於テ官吏ノ着ス可キ制服ヲ偽リ着シ又ハ官名ヲ偽

リ述ヘ或ハ官吏ノ偽造ノ命令書ヲ示シテ人ヲ逮捕

シタル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

又枉ニ逮捕セシ者ヲ殺サント脅迫シ又ハ其身体ヲ
痛苦セシメタル時ハ其犯人亦有期ノ徒刑ニ處セラ
ル可シ

第三百三十四條 末項

官吏ニ非サル者脅迫暴行ヲ以テ人ノ住所ニ押入り
タル時ハ一週ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○印度

第三百三十九條 故ラニ人其行クノ權アル方ニ向テ

行クヲ妨クル之ヲ非法人ヲ阻遏スト云フ

例外 眞實自ラ之ヲ塞クノ權アリト信シ水陸ノ私

路ヲ塞クハ此條ノ限ニ在ラス

第三百四十條 非法人ノ一區域ノ地ヲ越ユルヲ妨ク

ル之ヲ非法人ヲ拘制スト云フ

第三百四十一條 非法人ヲ阻遏スル者ハ一ヶ月ニ止

ル無苦役入獄若クハ五百リユーピーニ過キサル贖

金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百四十二條 非法人ヲ拘制スル者ハ一年ニ止ル

各種ノ入獄若クハ一千リユーピーニ過キサル贖金

ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ
第三百四十三條 三日以上非法人ヲ拘制スル者ハ二
年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖
金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百四十四條 十日以上非法人ヲ拘制スル者ハ三
年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖
金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第三百四十五條 釋放ノ令下リタルヲ知り非法人ヲ
拘制シテ止マサル者ハ該刑法ノ他ノ條ニ依テ罰ス
可キ入獄期ニ加ヘ二年ニ及フ各種ノ入獄ニ處ス可
シ

第三百四十六條 非法人ヲ拘制シ其隱密ナル其人ノ
親屬又ハ官吏ヲシテ拘制ヲ知ラシメヌ又ハ拘制ノ
場所ヲ知ラシメサルノ意アルヲ見ルキハ其單ニ非
法人ヲ拘制スルノ罪ヲ以テ受ク可キ刑ニ加ヘ二年
ニ止ル各種ノ入獄ニ處ス可シ

第三百四十七條 被拘者又ハ之ニ關係アル者ノ財物
又ハ有價ノ保證ヲ奪取シ或ハ被拘者又ハ之ニ關係
アル者ニ不法ノ事ヲナサシメ或ハ罪過ヲ看出スニ
至ルノ告知ヲナサシメ或ハ財物又ハ有價ノ保證ヲ

返償セシメ或ハ財物又ハ有價ノ保證ヲ返償ニ至ル
可キ告知ヲナサシメンカ爲メ非法人ヲ拘制スル者
ハ三年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス一千
八百七十年決議第二十七條第二條ヲ見ヨ

第三百五十九條 拐去ニ二種アリ英領印度外ニ人ヲ
拐去スル其一ナリ合法ノ保護外ニ人ヲ拐去スル其
二ナリ

第三百六十條 其人ノ承諾又ハ法律ニ於テ其人ノ爲
メニ承諾スルノ權アル人ノ承諾ヲ經ス人ヲ英領印
度外ニ移ス之ヲ英領印度外ニ人ヲ拐去スト云フ

第三百六十三條 英領印度若クハ合法ノ保護外ニ人
ヲ拐去スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖
金ヲ科ス

第三百六十四條 其人ヲ謀殺スルカ爲メニ或ハ其人
ヲ謀殺ノ危ニ處スルカ爲メニ人ヲ拐去誘略スル者
ハ終身流若クハ十年ニ止ル加苦役入獄ニ處シ且贖
金ヲ科ス

第三百六十五條 非法隱密ニ人ヲ拘制スルヲ圖リ之
ヲ拐去誘略スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ
且贖金ヲ科ス

第三百六十七條 其人ヲ重損、奴隸或ハ鷄姦ニ委シ又ハ此等ノ事ニ委セラレ、ノ危ニ處スルカ爲メニ又ハ此等ノ事ニ委セラレ或ハ委セラレ、ノ危ニ處セラル、ニ至ルヲ知テ人ヲ拐去誘略スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第三百六十八條 其拐去誘略セラレタルヲ知テ不法ニ人ヲ隱匿或ハ拘制スル者ハ拐去誘略スル者ト同罪之ヲ審決スルハ或ハ隱匿拘制ノ地ニ於テシ或ハ拐去誘略ノ地ニ於テスルヲ得可シ

第三百七十條 其意ニ逆ヒ人ヲ奴隸トシテ賣買運移授受輸入輸出スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第三百七十一條 常ニ人ヲ奴隸トシテ賣買運移輸入輸出スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第三百七十四條 其意ニ逆ヒ不法強テ人ヲ使役スル者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百四十一條 罪ヲ犯シ或ハ所有主ヲ恐威シ之ヲ損傷シ之ヲ煩苦スルヲ圖リ人ノ所有物ニ侵入シ又

ハ法ニ依リ他人ノ所有物ニ入り後不法ニ所有主ヲ恐威シ之ヲ損傷シ之ヲ煩苦スルヲ圖リ之ニ據留シテ去ラサル之ヲ侵入罪ヲ犯スト云フ

第四百四十二條 住居ニ用フル建物天幕若クハ船舶又ハ貯財ニ用フル建物ニ入テ侵入罪ヲ犯ス者ハ侵入家屋罪ヲ犯スト稱ス

第四百四十三條 己レヲ逐出スノ權利ヲ有スル者ニ侵入ヲ隱スノ設備ヲナシテ侵入家屋罪ヲ犯ス者之ヲ隱入家屋罪ト云フ

第四百四十四條 日没後日出前隱入家屋罪ヲ犯ス者

之ヲ夜隱入家屋罪ト云フ

第四百四十五條 左ニ掲クル六個ノ方法ヲ以テ家屋又ハ家屋ノ一部分ニ侵入シ或ハ犯罪ノ爲メニ之ニ留居シ或ハ罪ヲ犯シタル後之ヲ退去スル者之ヲ破入家屋罪ヲ犯スト云フ(一千八百七十年決議第二十七第二條ヲ見ヨ)

第一 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ自己又ハ加功者ノ作りタル路ニ由テ進入シ又ハ退去ス

第二 自己或ハ加功者ノ外人ノ路トナサ、ル路ニ由リ又ハ壁塀ヲ攀越シテ達シタル路ニ由テ進入

シ又ハ退去ス

第三 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ家主ノ欲セサル方法ヲ以テ自己又ハ加功者ノ開キタル路ニ由テ進入シ又ハ退去ス

第四 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ或ハ侵入家屋罪ヲ犯スノ後家屋ヲ退去スルカ爲メニ鎖開ヲ推開シテ進入シ又ハ退去ス

第五 有罪力ヲ用ヒ襲撃ヲ行ヒ又ハ襲撃ヲ以テ人ヲ脅カシテ進入シ又ハ退去ス

第六 進入又ハ退去ヲ拒ク爲メニ鎖サレタルヲ知

リ或ハ自己又ハ加功者ノ開ク所ナルヲ知テ其路ニ由テ進入退去ス

第四百四十六條 日没後日出前破入家屋罪ヲ行フ之ヲ夜破入家屋罪ト云フ

第四百四十七條 侵入罪ヲ犯ス者ハ三個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ五百「リユーピー」ニ止ル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百四十八條 侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ一千「リユーピー」ニ過キサル贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百四十九條

死ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ犯スカ爲メ
ニ侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ終身流若クハ十年ニ止ル
加苦役入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百五十條

終身流ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ犯スカ爲
メニ侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ十年ニ過キサル各種ノ
入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百五十一條

入獄ヲ以テ罰ス可キ罪ヲ犯スカ爲
メニ侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄
ニ處シ且贖金ヲ科ス若シ犯サント欲スル所ノ罪盜
ナレハ七年ニ及フノ入獄ヲ以テスルヲ得可シ

第四百五十二條

人ヲ損傷シ之ヲ襲撃シ之ヲ不法ニ
拘制シ或ハ之ヲ損傷襲撃不法ニ拘制セント恐スノ
設備ヲナシ侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ七年ニ及フ各種
ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百五十三條

隱入家屋罪或ハ破入家屋罪ヲ犯ス
者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百五十四條

入獄ニ處ス可キ罪ヲ行フカ爲メニ
隱入家屋罪或ハ破入家屋罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル
各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス若シ行ハント欲ス
ル所ノ罪盜ナレハ入獄ノ期十年ニ及ホス可シ

第四百五十五條 人ヲ損傷襲撃シ又ハ不法ニ拘制シ
 或ハ人ヲ損傷襲撃又ハ不法ニ拘制セント恐スノ設
 備ヲナシテ隱入家屋罪若クハ破入家屋罪ヲ犯ス者
 ハ十年ニ及フ各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス
 第四百五十六條 夜間隱入家屋罪若クハ破入家屋罪
 ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス
 可シ

第四百五十七條 入獄ニ處ス可キ罪ヲ犯スカ爲メニ
 隱入家屋罪若クハ破入家屋罪ヲ犯ス者ハ五年ニ及
 フ各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス其犯サント欲ス

ル所ノ罪盜ナレハ之ヲ處スルノ入獄十四年ニ及フ
 可シ

第四百五十八條 人ヲ損傷シ之ヲ襲撃シ之ヲ不法ニ
 拘制シ或ハ人ヲ損傷シ之ヲ襲撃シ之ヲ不法ニ拘制
 セント恐スノ設備ヲナシテ隱入家屋罪ヲ犯ス者ハ
 十四年ニ及フ各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ
 第四百五十九條 隱入家屋罪若クハ破入家屋罪ヲ犯
 スノ際人ヲ重損傷シ或ハ人ヲ殺シ人ヲ重損傷セン
 ト試ミル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄
 ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ

第四百六十條 數人共ニ夜隱入家屋罪若クハ夜破入家屋罪ヲ犯スニ當テ其一人人ヲ重損傷シ或ハ人ヲ殺シ又重損傷セント試ルキハ皆終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

○魯西亞

第一千五百四十條 捕留及ヒ禁錮ハ證據或ハ疑察ニ由ル歟又ハ罰ノ種類ヲ以テ法律ニ允許或ハ確定セラレ、ノ場合ヲ除クノ外何等ノ事故アルモ何等ノ故意アリモ或者ノ自由ヲ擅ニ或ハ強テ剝奪スル者ハ

之レカ爲メニ左ノ罰ニ處セラル但シ其捕留三箇月以上連續シタルキニハ身体及ヒ族位ニ屬シタル持權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等或ハ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル

若シ斯ノ如キ專擅ノ禁錮或ハ捕留ハ一週間以上三箇月以下連續シタルキニ其罪人ハ禁錮或ハ捕留ノ時間ニ依リ此刑法第五十條ニ原キテ特權幾分ノ剝奪及ヒ八箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時間懲治舍内ノ禁錮ニ處セラル(第三百四十八條 第三百五十二條)

一
千四
百九
條第

若シ專擅ノ禁個或ハ捕留ハ一週間以下連續シタル
場合ニ於テハ二箇月ヨリ少カラス四箇月ヨリ多カ
ラサル時間ノ禁獄ニ處セラる

第千五百四十一條 若シ被捕者ニ對スル侮辱ノ交接
ヲ以テ自由ヲ剝奪シタルキハ前文第千五百四十條
ニ確定シタル罰ヲ一等重加ス可シ

第千五百四十二條 若シ苛責或ハ其他ノ苦楚ヲ以テ
擅ニ自由ヲ剝奪シタルキ並ニ其自由ヲ剝奪セシヨ
リ遂ニ被捕者或ハ被錮者ニ重病ヲ生セシメタルキ

ハ豫謀ノ故意ヲ以テ苛責或ハ苦楚ヲ蒙ラシムルニ
就キ此刑法第千四百八十九條ニ確定シタル罰ノ重
キモノニ處セラる

第千五百四十三條 若シ擅ニ自由ヲ剝奪セシヨリ遂
ニ被錮者或ハ被捕者ヲ死セシメタルキハ族權全部
ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル
時間ノ城寨懲役ニ處セラる

第千五百四十四條 尊族卑族或ハ支族又ハ首長主君
或ハ恩人ノ自由ヲ剝奪スル罪人ハ前文第千五百四
十條ヨリ第千五百四十三條ニ至ルノ各條ニ確定シ

タル罰ニ處セラルト雖モ各場合ニ於テ二等重加セラル可シ

而シテ夫妻父母或ハ舅姑ノ自由ヲ剝奪スルニ就テハ三等重加セラル可シ(第百五十一條)

第千四百十條 奴隸ト爲シテ畧賣スル者又ハ其他ノ口實ヲ以テ魯國ノ臣民タル者或ハ魯律ノ保護ヲ受ル者ヲ亞細亞人或ハ其他ノ外國人ニ授與スル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間ノ城寨懲役ニ處セラル

第千四百十一條 法律ヲ以テ禁止サレタル亞弗利加

黑奴ノ買賣ヲ爲シ又ハ斯ノ如キ買賣ニ直接或ハ間接ニ加與スルヲ證徴セラル、者ハ海上ノ奪掠ニ就キ此刑法第千六百三十條ニ確定シタル罰ニ處セラ
ル
斯ノ如キ背法ノ買賣ニ使用シタル船舶ハ沒收セラ
ル
縱令黑奴ノ買賣ヲ實地ニ營マスト雖モ其買賣ノ爲メニ決定スル船舶ヲ準備及ヒ裝備スルヲ證徴セラ
ル、者ハ奪掠ノ徒黨ヲ組織スルニ就キ此刑法第九百二十四條ニ確定シタル罰ニ處セラル

黒奴買賣ノ爲メニ其者ノ準備及ヒ裝備シタル船舶
ハ沒收セララル

○墾地利 千八百五十二年五月二十七日布告

第八十三條 不法ノ報復ヲ爲シ或ハ其言立ヲ爲シ權
利ヲ行ヒ遂ケ或ハ約束若クハ證據トナル可キ事件
ヲ強要シ或ハ其他不平ヲ慰メンカ爲メ等ニテ多人
ヲ募集シ暴威ヲ以テ他人ノ不動産中ニ侵寇シ其土
地若クハ其レニ就キシ權利ヲ安全ニ保有スルヲ
妨碍セシ者或ハ他ニ共犯者ヲ伴ハスト雖モ兵裝ヲ

ナシ他人ノ屋宇若クハ住家ニ侵入シ其主人家族若
クハ他ノ所有物ニ對シ強暴ヲ加ヘシ者

第八十四條 其刑

此暴行ノ首犯ハ之ヲ一年乃至五年ノ重徒刑ニ處シ
其附属トナリテ此罪ヲ幫助セシ者ハ之ヲ六月乃至
一年ノ輕徒刑ニ處ス可シ

第九十條 官署ニ告知セス或ハ其准允ナク人ヲ外國
ノ手ニ交付スル爲メニ本人ノ意ヲ顧ミス之ヲ欺瞞
若クハ暴威ヲ以テ畧擄セシ者

第九十一條 其刑

此重罪ノ刑ハ五年乃至十年ノ重徒タル可シ然レモ若シ其略拐セラレシ人ノ性命ニ關スル危険若クハ自由ヲ恢復シ難キ危険ニ陷ラシムルニ於テハ其刑期ヲ二十年迄ニ至ラシム可シ

第九十三條 成法ニ從ヒ已レノ權下ニ屬セス且重罪犯ノ證據ナク又損害若クハ危険ト認ム可キ原因ノナキ人ヲ恣ニ幽囚シ又ハ其方法ノ如何ヲ問ハス總テ此ノ如キ人ノ自由ヲ妨害セシ者或ハ其然ル所以ノ理アリト思考シテ之ヲ羈絆セシ者ト雖モ其事ヲ直チニ其適當ノ公署ニ告知スルヲ故ラニ抛擲セ

シ者

第九十四條 其刑

此重罪ノ刑ハ六月乃至一年ノ輕徒刑タル可シ然レモ若シ其羈絆ノ三日以上ニ過キシカ或ハ其羈絆セラレシ人ノ損害ヲ被リシカ若クハ其辱ハレシ自由ノ外尙ホ他ノ慘苦ヲ受ケシ時ハ其刑ハ一年乃至五年ノ重徒刑タル可シ

第九十五條 帝號國ニ於テハ奴隸タル事及ヒ之ヲ使用スル權力ヲ禁シ總テ奴隸ハ國ノ境內ニ入り若クハ國ノ船舶ニ來ル時ハ直チニ其自由ヲ得可

ク又外國ニ在テモ墺國臣民ノ奴隸ヲ獲レハ如何ナル名目ニ係ル者ト雖モ直チニ其自由ヲ復セシム可キヲ以テ國法ト爲スカ故ニ若シ奴隸ヲ受ケ得テ其自由ヲ妨害シ若クハ内外國ニ於テ更ニ之ヲ賣渡ス者及ヒ一人若クハ數人ノ奴隸ヲ搭載スルヲ諾シ若クハ墺國ノ船舶ニ來ルヲ以テ即チ復シ得タル奴隸ノ自由ヲ自カラ妨害シ若クハ他人ヲシテ妨害セシメシ船長ハ公然暴行ノ重罪トシテ一年乃至五年ノ重徒刑ニ處ス可シ

墺國船舶ノ長若クハ自餘ノ墺國臣民ニシテ長時間

奴隸ノ事ヲ業トセシ者ハ之ヲ十年ニ至ル迄ノ重徒刑ニ處シ殊ニ加等ス可キ情狀アレハ之ヲ二十年ニ至ル迄ノ重徒刑ニ處ス可シ

第九十六條 事ノ成否ヲ問ハス結婚若クハ猥褻ノ所行ヲ爲ス趣意ヲ以テ婦女ノ意ヲ顧ミス暴威若クハ欺瞞ヲ用テ之ヲ誘拐セシ者或ハ縱令其婦ノ意ヲ得セシムト雖モ之ヲ其夫ヨリ奪ヒ或ハ子ヲ其親ヨリ奪ヒ或ハ幼主ヲ其後見人若クハ管照人ヨリ奪ヒ欺瞞若クハ暴威ヲ以テ之ヲ誘拐セシ者

第九十七條 其刑

本人ノ意ヲ得スシテ之ヲ誘拐セシ者或ハ十四歳未
滿ノ人ヲ誘拐セシ者ハ其方法如何ト其豫望若クハ
已成セシ惡業ノ輕重トニ應シ之ヲ五年乃至十年ノ
重徒刑ニ處ス可シ然レモ其誘拐セラレシ人十四歳
既滿ニシテ且其許諾アルニ係ル者ハ之ヲ六月乃至
一年ノ重徒刑ニ處ス可シ

第四百十三條 凡各家折鑑ノ權ハ之ヲ受クルノ人身
体毀傷ヲ負フノ苛酷ニ及ヒ得ルヲナシ

故ニ父母ノ兒ニ對スル後見者幼童ニ對スル夫婦間
互ニ對スル教育者教師其鞠兒書生ニ對スル師長其

門弟ニ對スル家長其傭丁ニ對スル總テ斯ノ如キ苛
酷ノ所業ヲ爲スハ之ヲ違式罪トシ刑ス可シ

第四百十四條 父母其兒ニ對シ苛酷ノ所業ヲ爲スル
ハ其父母ヲ裁判所ニ呼出シ初犯ニ於テハ其權威妄
施併ニ天然ノ恩愛毀傷ノ所業ヲ嚴且切ニ責メ再犯
ニ於テハ之ヲ咎メ且自今更ニ復タ斯ノ如キ苛酷ヲ
用フルルハ父母タルノ權ヲ褫奪シ其兒ヲ收テ他ニ
鞠養セシメ其費ヲ購ハシム可キヲ申渡ス可シ
第四百十五條 其第三回ニ及フカ或ハ初回ト雖モ其
苛酷已ニ頗ル甚シキカ或ハ父母ノ神心全ク偏固シ

該兒將來ノ危險懼ル可キニ於テハ直チニ之ヲ前條
未節ニ記載セル刑ニ處ス可シ然ルキハ其後見者ハ
行政官ト協議照會ノ上一定スルヲ要ス

第四百十七條 後見人幼童ニ對シ苛酷ノ所業ヲ爲ス

キハ初回ニ於テ已ニ其職ヲ奪フ可シ然レモ其後見
ニ於テ其便益アリ之ヲ奪ヒ難キキハ裁判所ニ於テ
嚴ニ之ヲ戒ム可シ又緣故ノ後見人ナルキハ一週以
上一月以下禁獄ニ處ス可シ

第四百十八條 後見人更ニ復タ其幼童ニ對シ前條ノ

所業ヲ犯スカ或ハ其初犯ト雖モ第四百十五條ノ如

キ情狀アルニ於テハ自今後見人ト爲ルノ權ヲ剝奪
シ併ニ第四百十六條中這的ノ場合ニ於テ父母ニ對
スル處刑トシ掲載セル者ヲ以テ之ニ科ス可シ

第四百十九條 夫婦ノ一人他ノ一人ニ對シ第四百十

三條ニ掲載セル如キ所業ヲ爲スキハ其兩者ヲ呼出
シ之ヲ吟味シテ其暴戾ヲ爲セシ者ニ嚴譴ヲ加ヘ或
ハ情狀ニ從ヒ一週以上三月以下禁獄再犯ニ於テハ
之ニ苛嚴ヲ加フ可シ然レモ其暴戾ヲ受ケシ者猶ホ
爲メニ處刑寬恕或ハ加之放免ヲ願ヒ得ルコト其自由
ニ在リ然ルキハ裁判官注意シテ適宜ノ取捨ヲ行フ

可シ

第四百二十條 男女ヲ問ハズ凡教育人或ハ教師其鞠

兒ニ對シ暴戾ノ所業ヲ爲スルハ初回ニ於テハ三日

以上一月以下禁獄再犯ニ及ヘハ其初犯ノ如キ處刑

ノ外尙ホ將來教師教育師ノ職ニ就クヲ禁ス可シ

第四百二十一條 家長若クハ師長其僕婢或ハ子弟ニ

對シ暴戾ノ所業ヲ爲スルハ其暴戾ヲ受ケシ者ノ性

質及ヒ暴戾ノ大小ニ應シ五_二グルデン_一以上百_二グルデ

ン_一以下ノ罰金或ハ三日以上一月以下ノ禁獄ニ處ス

可シ然レモ爾後尙ホ該所業數度ニ及フカ或ハ暴戾

ノ所爲特ニ苛酷ナルキハ本刑ニ苛嚴ヲ加フ可シ

〇加利堡爾尼

第二百七條 凡威力ヲ以テ本州ノ人ヲ盜奪略取捕捉

シテ他國他州他郡ニ送致シ若クハ人ヲ本州外ニ送

致スルノ企圖アツテ肯テ聯邦若クハ本州ノ法律ヲ

以テ其要求ヲ申告セス威力ヲ以テ之ヲ略取捕捉シ

若クハ本州ノ人ヲ賣テ奴隸若クハ賄願ノ傭夫トセ

ン_一ヲ欲シ若クハ其情願ニ戾リ其協同ヲ取ラスシ

テ之ヲ己レニ使役シ若クハ他人ノ使役ニ供セン_一

ヲ欲シ乃々偽約詐言等ヲ以テ之ヲ雇取勸誘勾引騙
惑挑唆シテ本州ヲ去ラシメ若クハ本州外ニ畧引轉
移セラレシムル者ハ並ニ略奪罪トス

第二百八條 略奪罪ハ一年以上十年以下ノ禁固ヲ科
ス

第二百三十六條 凡誣拘人ヲ認テ之ヲ拘ハ不適法ニ
人ノ身軀權ヲ破ル者トス

第二百三十七條 誣拘者ハ五千元以下ノ罰金若クハ
一年以下ノ禁固ヲ科シ或ハ右二刑ヲ併科ス

第三百六十一條 凡愚呆瘋癲狂疾ノ人ニ苛酷殘虐薄

情ノ接待ヲナシ若クハ之ニ遇スルノ常道ヲ怠ル者
ハ小罪ト爲ス

第三百六十三條 凡ソ審院ノ官吏若クハ外人若シ其
解禁票ニ依テ解禁セラレタルヲ知リナカラ不適
法ニ其解禁者ヲ復捕拘禁シ若クハ其自由ヲ妨碍ス
ル者ハ並ニ小罪ト爲ス

第三百六十四條 凡人ヲ己ノ監獄中ニ拘留シ若クハ
之ヲ己ノ拘束拮制下ニ保有スル者若シ解禁票ノ送
到ヲ逃レ若クハ其票ノ効驗ヲ避ント企欲シテ其人
ヲ他人ノ監獄ニ移送シ若クハ他人ノ拘束拮制下ニ

付シ若クハ其拘禁拘束ノ地ヲ隱蔽變換シ若クハ之
ヲ其票ヲ發セル審院ノ管轄外ニ從遣スル者ハ並ニ
小罪ト爲ス

第四百十八條 凡人ノ土地若クハ其他ノ所有物ニ進
入指留スルニ強力暴行ヲ用ヒ若クハ人ヲ發作鼓舞
陪助シテ是レニ強力暴行ヲ用ヒシムル者ハ法ノ允
許スル事件ト其式様ニ依ルトニアラサレハ並ニ小
罪ト爲ス

○英吉利

凡勢力ヲ用ヒ強逼恐嚇シテ人ノ田地房屋ニ侵入シ或
ハ之ヲ強占スル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處
斷ス

第六十 人ニ對シ或ハ財産ニ對スル脅迫ノ罪

○佛蘭西

第三百五條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)無
 名ノ書類又ハ記名ノ書類ヲ以テ人ヲ謀殺或ハ毒殺
 セント脅迫シ又ハ死刑無期ノ徒刑流刑ニ處ス可キ
 暴行ヲ人ニ加ヘント脅迫シタル者其指示セシ場所
 ニ金額ヲ送ル可キノ強令又ハ其他ノ契約ヲ行フ可
 キノ強令ヲ以テ其強迫ヲ爲シタル時ハ二年ヨリ少
 カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
 レ且百五十「フランク」ヨリ少カラス千「フランク」ヨリ

多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
且其犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カ
ラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタ
ル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ
又其犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カ
ラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ
ムルヲ得可シ

第三百六條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 若
シ其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ行ハシムルヲ
ナキ時ハ其犯人一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラ

サル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少
カラス六百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ
受ク可シ

此場合ニ於テ其犯人ハ前條ニ記スル所ト同シク政
府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百七條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 若
シ言詞ヲ以テ前條ニ記シタル脅迫ヲ爲シ且其脅迫
ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ爲シタル時ハ其犯人六
月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ處セラレ且二十五フランクヨリ少カラス三百フ

ラシク「ヨリ多カラサル罰金」ノ言渡ヲ受ク可シ
此場合ニ於テ其犯人ハ前條ニ記スル所ト同シク政
府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百八條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）言
詞又ハ文書類ヲ以テ第三百五條ニ記セシ以外ノ暴
行ヲ加ヘント脅迫シ且其脅迫ニ附加シテ強令又ハ
契約ヲ爲シタル者ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランク
ヨリ少カラス百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言
渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミニ處セラル可シ

第四百條（千八百六十三年五月十三日如左改ム）脅迫
又ハ暴行ヲ以テ義務、契約、算還ノ旨ヲ記シ又ハ此等
ノ事ヲ爲サシムル書類證書類ニ姓名ヲ手署セシメ
シ者又ハ其書類證書類ヲ渡サシメタル者ハ有期ノ
徒刑ニ處セラル可シ

書面或ハ言詞ヲ以テ人ノ名望ヲ辱ム可キ漏告及ヒ
讒誣ヲ爲スヲ脅迫シ金額又ハ財産ヲ渡サシメシ者
又ハ前文ニ記シタル書類證書類ニ姓名ヲ手署セシ
メ又ハ其書類證書類ヲ渡サシメシ者又ハ此等ノ事
ヲ試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多